埋 築 遺 跡

都治地区県営ほ場整備事業に伴う発掘調査報告書 [

2002年3月

島根県浜田農林振興センター 江津市教育委員会



I区 溝状遺構1 S→N

江津市教育委員会では、島根県浜田農林振興センターの委託を受けて、平成9年度から都治地区県営ほ場整備事業予定地に所在する埋蔵文化財の発掘調査を実施しておりますが、このたび報告書を刊行する運びとなりました。本報告書は、平成12年度に本調査された江津市都治町に所在する埋築遺跡の調査成果をとりまとめたものです。

江津の中央を流れ奔る江の川は、中国太郎の異名を持つ中国地方最大の河川として知られていますが、古来より中国路陰陽を結ぶ大動脈として、文化、経済、人の交流を促してきました。15世紀の半ばには既に江の川河口は対外貿易の一基地となり、環日本海交流の要衝の地として重要視されていたことが中国朝鮮などの文献により明らかになっております。

今回の調査は、昭和46・47年に行なわれた波来浜遺跡調査以来、江津市東部では実に29年振りの本格的な調査となりました。都治の地に縄文時代から人々が生活を営み、中世においては祖先を弔う屋敷が存在していた事がわかり、今まで不透明だった江津市の古代史にとって大変貴重な発見となりました。来年度発刊を予定している都治町・高津遺跡の報告書と併せて、本書が地域の歴史と文化に対する理解と関心を高める一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査ならびに本書を刊行するにあたり、ご協力いただきました地元の皆様や島根県浜田農林振興センター、島根県文化財課、島根県埋蔵文化 財調査センターをはじめ、多くの関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成14年3月

江津市教育委員会 教育長 野 上 公 司

例 言

- 1. 本書は島根県浜田農林振興センターが実施した、都治地区県営ほ場整備事業に伴い江津市教育委員会により平成11年度~平成13年度に本調査された遺跡のうち、埋築遺跡発掘調査における本報告書である。
- 2. 発掘調査は島根県浜田農林振興センターの委託金と文化庁の国庫補助金を得て、江津市が実施した。
- 3. 本遺跡の調査履歴は以下のとおりである。

昭和48年度石斧表採

平成9年度試掘調査

平成10年度確認調査

平成12年度一部本調査及び確認調査

4. 調査体制は次のとおりである。

事務局 江津市教育委員会

平成9年度調査担当遺物整理	野上公司佐々葉牧生堀川堀川哲郎盆子原悦子宮本高島紀子	教育長 生涯学習課長 同 課長補佐 同 主事 同 主事 同 嘱託員	平成12年度 調査担当 遺物整理	野上 公司 岩田 春正 藤田 裕 國澤(盆子原)悦子 梅木 茂雄 松原あゆ子	教育長 生涯学習課長 同
平成10年度 調査担当 遺物整理	野上公司横山豊堀川哲郎盆子原悦子梅木茂雄高島紀子	教育長 生涯学習課長 同 課長補佐 同 主事 同 嘱託員 同 嘱託員	平成13年度 調査担当 遺物整理	野上 公司 岩田 春正 藤田美恵子 林 正司 國澤 悦子 梅木 茂雄 福本加世子	教育長 生涯学習課長 同 課長 同 主事 同 三 嘱託員

- 5. 調査及び報告書の作成に際し、次の組織、方々に指導・助言をいただいた。記して感謝する。 島根県文化財課,島根県埋蔵文化財調査センター,浜田市教育委員会,西伯耆弥生研究会
- 6.報告書の作成は以下の者が携わった。(五十音順) 上野由美恵,梅木茂雄,上手文子,澤津孝,鹿森三鈴,柴田亜希子,恒松明宏,山田ゆう子,
- 7. 報告書記載の遺物・図面・写真等は江津市教育委員会で保管している。

本文目次

序								
例言								
第1章								1
第2章								2
第3章	章 調査の結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・						• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	6
	第1節 試掘の結果及び周	辺の環境・・・・・・・・・・	• • • •					6
								Ĉ
	1. 溝状遺構 1							S
	2. 包含層 1 · · · · · · ·							S
	3. 縄文時代・弥生時代	の遺物について・・・・・・・						S
	4. 小結		• • • • •					10
	第3節 古代~中世・近世	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •						11
	1. 中世の遺構について		• • • •				• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	11
	2. 古代~中世・近世の	遺物について						13
	3. 小結							13
第4章	章 まとめにかえて・・・・・・							14
参考了	ケ献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・							15
		į	挿図	目次				
第1図	江津市東部の遺跡	S=1/40,000 ······	3	第11図	建物実測図 3	S=1/60		23
第2図	埋築遺跡周辺の状況	S=1/10,000 ·····	5	第12図	建物実測図 4	S=1/60		24
第3図 第4図	トレンチ配置図 トレンチ土層図	S=1/2,500 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		第13図 第14図	建物実測図 5 土坑墓1実測図	S=1/60 S=1/30		25 26
	縄文~弥生時代遺構配置図	5-1/00			遺物実測図 1	S=1/30		32
第5図-	- 1 溝状遺構 1 土層図	S=1/60 ·····	17	第16図	遺物実測図 2	S=1/3		33
	- 2 包含層 1 土層図	S=1/60 ·····			遺物実測図 3	S=1/3		34
第 7 図	古代~中世・近世遺構配置図 I区遺構検出状況	S=1/100 ······		第18図 第19図	遺物実測図 4 遺物実測図 5	S=1/3 S=1/3		35 36
第8図	Ⅱ区遺構検出状況	S=1/100 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			遺物実測図 6	S=1/3		37
	建物実測図 1	S=1/60 ······			遺物実測図 7	S=1/3		38
第10図	建物実測図 2	S=1/60 ·····	22					
		€E-7	चेंद्र (का)	ᄩ				
		与	具凶,	版目次				
巻頭	溝状遺構1(S→N)		F2	写真12			以17図) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
写真 1	埋築遺跡 雪景 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			与具13				
	主要トレンチ ・・・・・・・・・・・・・・・・・		54	写真14	弥生時代遺物 5	(第18図) · · · · · ·		66
写真3	遺跡周辺の状況 (E→W) · · · · · ·				弥生時代遺物 6	(第18図・⑥のみ	↓17図)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	66
与具 4	溝状遺構 1 (第 5 図- 1)· · · · · · · 遺物出土状況 · · · · · · · · · · · · · · ·		56 56	与具15	弥生時代遺物 7 弥生時代遺物 8	(第19図)······		6
写真 5	Ⅱ区包含層 1 調査風景 (E→W)・		57	写真16	弥生時代遺物 9	(第20図) · · · · · ·		68
	Ⅱ区包含層1土層堆積状況A(E-	→ W)(第5図-2) ·······	57		弥生時代遺物10	(第20図) · · · · · ·		69
罗古 C	Ⅱ区包含層1土層堆積状況B(N- Ⅲ区包含層1調査風景(W→S)・	→S) (第5図-2)············	57 58	写真17	石器(第15図一	8) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		69
写真 6	Ⅱ区包含層 1 調査風景(W→S)・ Ⅲ区包含層 1 土層堆積状況 B(W-	→E) (第5図-2) ·······	58		ホ生前期土器 (第17図ー3)· · · ·		69
写真 7	I区遺構検出状況北側(S→N)・		59		弥生中期土器(第18図ー2)・・・・		69
写真 8	I 区遺構検出状況南側(W→E)・ II 区遺構検出状況北側(W→E)・		59 - 60		弥生後期土器(第20図-6)・・・・ 第20図-15)・・・・		69
- 7 × 0	II 区遺構検出状況南側(W→E)・		60	写真18	Ⅱ区出土黒曜石	片		70
写真 9	Ⅱ区柱穴列3 検出状況(S→N)		61		土坑墓1・溝状	遺構 2 出土 土師	万器 (第21図)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	70
	Ⅱ区土坑墓1出土遺物(S→N)・ Ⅱ区土坑墓1・溝状遺構2(W→I		61 61	写真19	土坑墨 出土道	物 短刀(第21년 21図)・・・・・・・・	<u>d – 7) · · · · · · · · · · · · · · · · · · </u>	70 70
写真10	柱穴検出状況		62		建物 5 P 5 出土口	中世陶器及び周辺	出土陶器	7.
	トレンチA (第5図) · · · · · · · · · 県道脇 石塔群 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		62 62	写真20	Ⅱ区出土、中世	磁器(表 4)····		7:
写真11	縄文時代遺物1 (第15図)		63	写真21	近世遺物(表4)		73
#7***10	縄文時代遺物 2 (第15図)······		63		近世以降遺物(表 4)		73
与具12	弥生時代遺物 1 (第16図)・・・・・・		04					
	表目》	K				グラフ	目次	
表 1	江津市東部の遺跡一覧・・・・・・・・			グラフ	1 柱間距離一覧			3.
表 2	遺構計測表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		27	グラフジ	2 遺物出土量一	覧		50
表 3 表 4	遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		39 45	グラフ: グラフ』	 5 胴部細片集計 4 弥生前期暗郊 	沈線数集計		5.
表 5	遺構出土遺物一覧表 · · · · · · · · · ·		48	グラフ!	 3. 九 司 河 川 印 5 弥生時代土器 	医径一覧 ······		5.
表 6	出土遺物集計表		49					
表 7	弥生時代土器底径一覧表 · · · · · ·		51					

第1章 調査に至る経緯

都治地区県営ほ場整備事業に先立ち、江津市は平成9年1月6日付で、江津市教育委員会(以下 市教委)へ埋蔵文化財の有無及びその取り扱いについて照会を行った。これを受けて市教委は平成 9年1月13日から分布調査及び試掘調査を行った。調査の結果、周知の遺跡である宇野勘吉氏宅付 近遺跡、埋築遺跡の周辺は遺跡であることが確認された。平成10年6月9日島根県教育庁文化財課 を交え協議を行った結果、埋築遺跡の範囲及び性格を確認する為、確認調査が必要と指導を受けた。 平成10年9月21日浜田農林振興センター所長より江津市長へ事業区域内第3工区の確認調査の依頼 があり、同9月30日に委託契約を結び平成10年10月1日~平成11年3月19日にかけて調査及び整理 を行った。調査は遺跡範囲の75,000㎡に対して、2m×4mを基本としたトレンチ(確認坑)30箇 所により行なった。調査結果を踏まえ、高津遺跡・埋築遺跡については、開発により一部消滅する 恐れがあるため、事業で掘削される個所の本調査が必要と回答。調査費については事業主体である 浜田農林振興センターに負担していただき、受益者負担分については文化庁の国庫補助を受けて平 成11年度~13年度にかけて両遺跡の調査を行った。調査は平成11年度に高津遺跡 I 区を行ない、平 成12年度は埋築遺跡Ⅰ区・Ⅱ区調査を6月~12月まで、高津遺跡Ⅱ区を12月から3月まで行なった。 平成13年度は高津遺跡Ⅲ区調査を4月から12月末まで、埋築遺跡報告書作成を平成14年1月から行 なった。埋築遺跡Ⅱ区の包含層については、上面を本調査、下面は確認の為の試掘調査に留めた。 I区は、ほ場事業が遺構に影響しないため、床土除去後に3日ほど確認調査を行った。現地説明会 は11月26日に開いた。参加者は約80人。調査の内容などは江津市出前講座などで活用した。報告書 の作成は平成14年1月7日から行い、2月1日に入稿した。



高津遺跡上空より埋築遺跡、日本海を望む S→N

第2章 位置と江東地区の歴史的環境(第1図・表1)

江津市は、日本海側の沿岸部に位置し、中国山地より流れ下る江川により中央で分断されており、沿岸部東側を江東地区、西側を江西地区と呼んでいる。険しい山地は少なく、市域は準平原の前地斜面で形成されている。江東地区の入り組んだ旧沿岸線は海浜部から丘陵までクロスナ層を間に挟んだ新・旧砂丘が厚く堆積している。この為海浜部は小規模の後背湿地を持つ低砂丘陵が多く存在する。江東地区で最大の盆地を持つ都治は交通の要衝として機能しているようである。今回の調査では、古代山陰道及び関連遺跡は確認できなかった。江東地区で本格的な発掘調査が行われたのは、波来浜遺跡(S46~47)のみで、今回の一連の調査が2例目である。このため地域全体の歴史を把握することは困難であるが、以下表採・調査等により分る範囲で江東地区の歴史を概観する。

縄文時代

海浜部で後期の遺跡が確認されている。波来浜遺跡北方で、土器が表採されている。尾浜地区では偏平磨製石斧が表採された。また、後期のクロスナ層が確認されており、遺物もまとまって出土している。内陸部では遺跡は未確認。

弥生時代

埋築遺跡で縄文晩期から弥生末期にかけての包含層と、前期の土器を伴う溝状遺構が一部調査された(本報告)。波来浜遺跡では前期の赤彩壷が出土しており、壷棺の可能性を指摘されている。

中期の遺跡は埋築遺跡の包含層の他、波来浜遺跡で張り石の墳丘墓が確認されている。後期に入ると、波来浜遺跡張り石墳丘墓が継続される他、高津遺跡で住居跡等が確認されている。

古墳時代

弥生時代末から古墳時代初頭に掛けての住居跡が高津遺跡で確認された。尾浜遺跡で竹管文を施されたもの等前期の土師器小片が数点表採された。中期では、据付かまど(炉)を伴った住居跡等が高津遺跡で調査されている。後期に入ると、高津遺跡で粘土採取坑と思われる土坑群が調査されている。また、須恵器模倣の磨研土師器や「郡」へら書き須恵器坏が出土している。波来浜遺跡で土師器、須恵器、鉄斧が出土している。古墳では箱式石棺を伴う尾浜古墳と佐古ヶ丘横穴墓群が知られている。江東地区での横穴式石室は未確認である。その他各地で遺物が表採されているが、明確な遺構は確認されていない。

奈良平安時代

主要な遺跡は、長田遺跡、波来浜遺跡の2箇所のみだが、それぞれ地元では長田千軒、波来浜千軒と呼ばれており興味深い。両遺跡からはともに、土師器、底部糸切り須恵器等が出土しているが、波来浜遺跡ではその他に製塩土器、土錘や須恵器・石帯一組を伴った火葬墓が調査されている。それ以外の遺跡からは当該期の遺物はまとまった出土がない。

中世

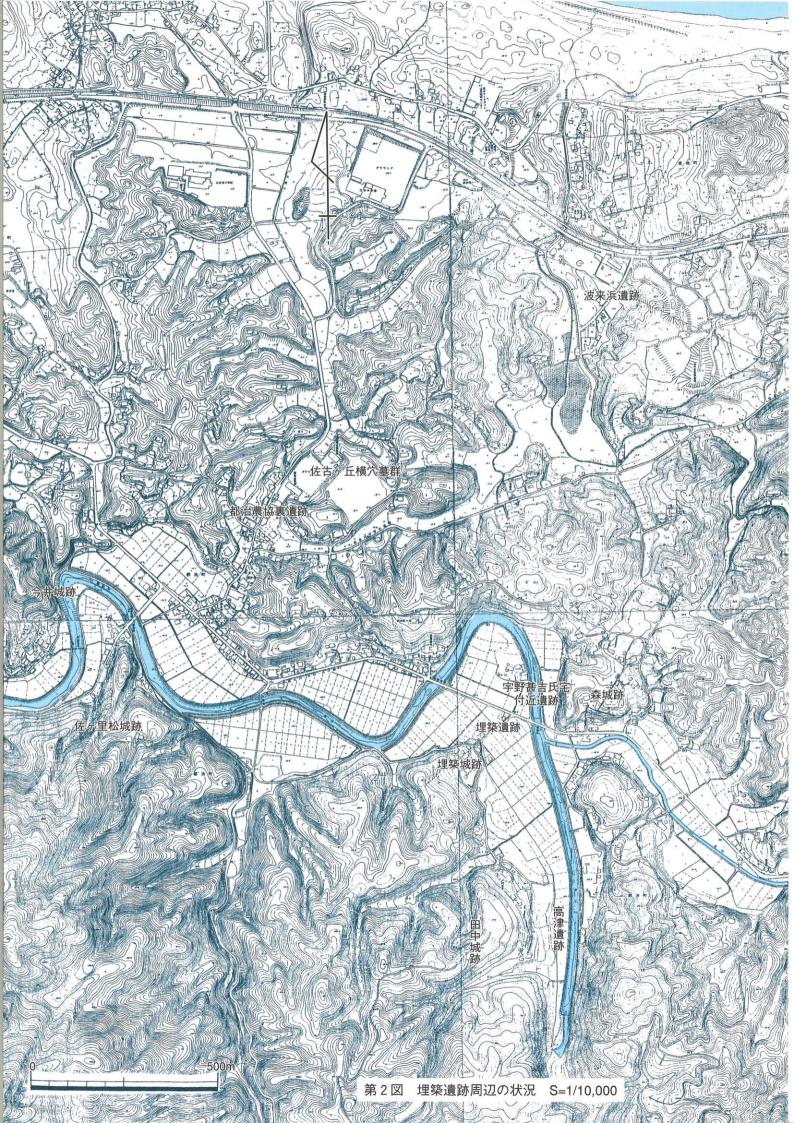
埋築遺跡で、土坑墓を伴う建物跡が調査された。高津遺跡でも掘立柱建物跡等が調査されている。 江東地区では現在まで多くの山城が確認されているが、発掘調査されたものは鎌満城跡と千本崎城 の一部のみで、時期を確定できる遺物はなかった。宝篋印塔は各地で確認されている。波来浜遺跡 で、炉状遺構1基が確認されている。また、「g」字墨書土師器、前期の陶磁器と 銭957枚、羽子 板状鉄斧、鉄釘が出土している。遺跡南東で工事立会のさい柱穴群が確認されているが、担当者に より中世の可能性が指摘されている。



表1 江津市東部の遺跡一覧 中世まで

			縄文	(時代	弱	生時	代	古	墳時	代	古	代	中	世		
番号	遺跡名	所在地	前半	後半	前半	中半	後半	前半	中半	後半	奈良	平安	前半	後半	概要	備考
1	長田遺跡	渡津町長田								0	•	0			須恵器,土師器出土	別称長田千軒
2	寺段経塚	渡津町塩田											0	0		
3	大堀遺跡	後地町大堀				0									クロスナ層、弥生土器、土師器、須恵器	遺物不明
4	藪遺跡	後地町藪		0			0		0	0					弥生土器、土師器、須恵器	遺物不明
5	尾浜遺跡	後地町尾浜		•				0							クロスナ層、縄文土器、土師器	開発により一部 消滅
6	尾浜古墳	後地町尾浜)						箱式石棺	
7	波来浜大火矢	後地町波来浜											0	0	防塁	
8	波来浜遺跡	後地町波来浜			0	•	•			0	0	0	0		弥生墳丘墓、弥生土器、土師器·須恵器、 石帯一組	, 別称波来浜千軒 調査後保存
9	宇野勘吉氏宅付近遺跡	都治町上都治				0									石斧、弥生土器	土師質土器確 認 遺物不明
10	埋築遺跡	都治町上都治		0	•	•	0						•	0	弥生前期溝、中世建物、中世墓、突帯文 土器、弥生土器、陶磁器、土師器	一部確認調査 後保存
11	高津遺跡	都治町上都治					•	•	•	0			•	0	集落、水場遺構、粘土採取坑、碧玉管玉、 「郡」へら書き須恵器、木製品	·調査後保存
12	農協裏遺跡	都治町中都治								0	0	0			布目瓦	須恵器確認 遺物不明
13	佐古ヶ丘横穴墓群	都治町中都治								•					横穴墓4基	消滅
14	神田遺跡	波積町本郷								•					須恵器	遺物不明
15	本郷遺跡	波積町本郷								•					須恵器	
16	二川遺跡	波積町本郷								•					土師器、須恵器	遺物不明
_	鎌満城跡	渡津町塩田											0	0		
=	蟹ヶ迫城跡	渡津町長田											0	0		
三	大和田城	渡津町渡津											0	0	,	
四	千本崎城	松川町太田											0	0		
五.	川上城跡	松川町市村											0	0	4	
六	松山城跡	松川町市村											0	0		
t	殿畑館跡	松川町市村											0	0		
八	櫃城跡	松川町長良											0	0		
九	雌雄城跡	浅 利 町											0	0		
+	四地蔵城跡	浅 利 町											0	0		
+-	今井城跡	都治町下都治											0	0		
+=	佐賀里松城跡	都治町下都治											0	0		
十三	埋築城跡	都治町上都治											0	0		
十四	田中城跡	都治町上都治											0	0		
十五	森城跡	都治町上都治											0	0		
十六	高畑城跡	松川町畑田											0	0		
十七	半蔵城跡	松川町畑田											0	0		
十八	林城跡	.松川町上津井											0	0		
十九	利光城跡	波積町本郷											0	0		
二十	砥谷城跡	波積町本郷											0	0		

時期区分は大まかに行い、弥生・古墳時代についてはかならずしも前半=前期ではない。 山城の時期は遺物の確認されていないものについては一応大まかに中世としてある。 ●は、遺跡の時期を表す。○は遺物が極端に少ないものや、遺跡の時期がはっきりしない場合に用いた。 未確認の時期は罫線をはずして表示した。



第3章 調査の結果

第1節 試掘の結果及び周辺の環境 (第3・4図、写真2)

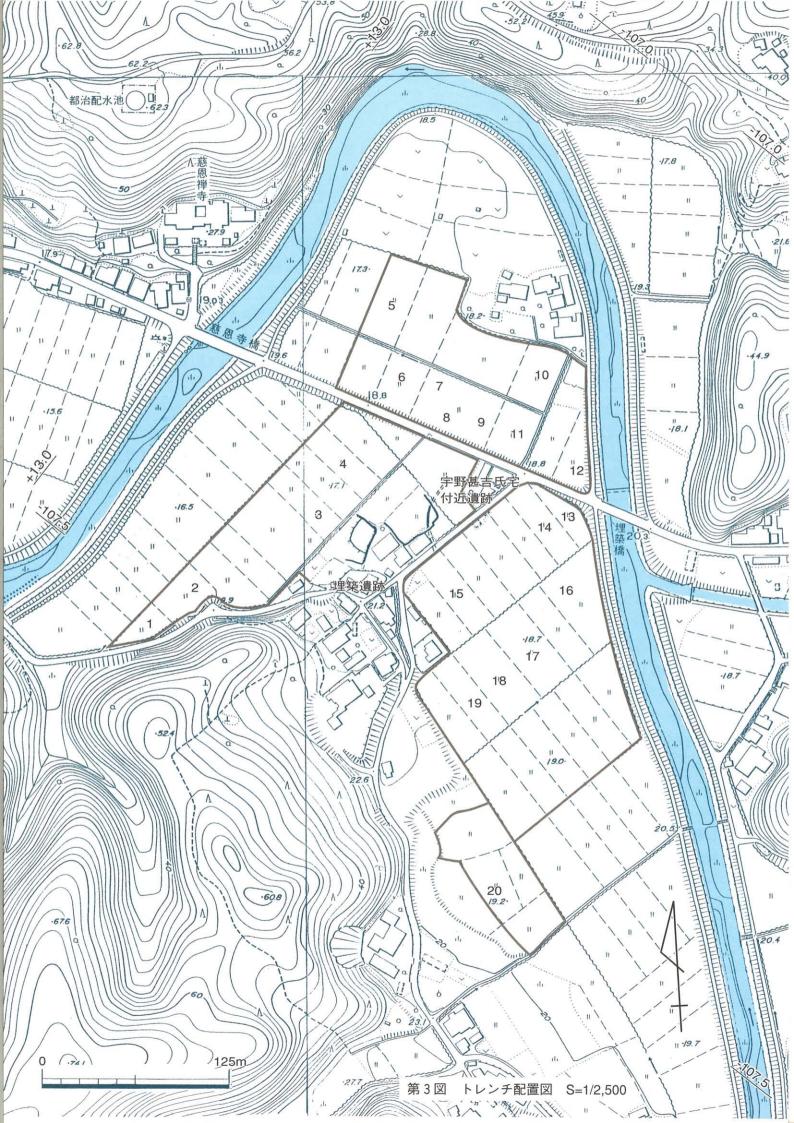
平成9年度及び10年度実施の試掘・確認調査の結果を基に、埋築遺跡周辺の環境について述べる。 調査区 I 区は平成9年度の調査時に、南北の水田面より落ち込んでおり、聞き取り調査の結果と併せて試掘調査の対象から外されていたが、ほ場整備中の床土除去時に遺構が発見された。今回の事業による遺構面への影響は無かった為、プラン検出及び測量のみで I 区は現状保存とした。

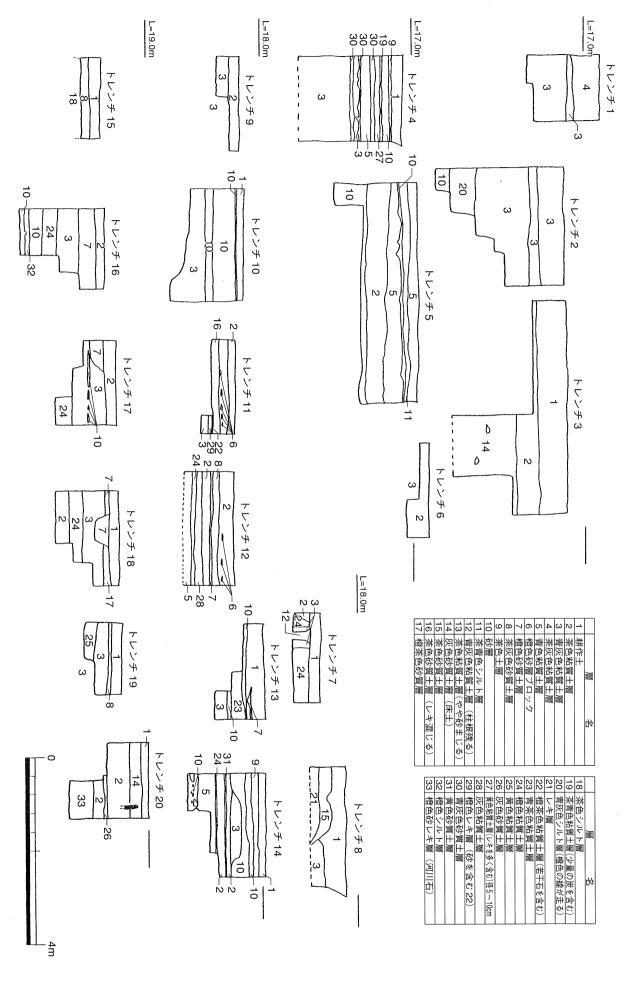
今回の調査では基本的に土層は青灰色系粘質土の水平堆積をしており、トレンチ1のように薄い砂層が数層堆積している状況が多く見られる。この土地は、都治川の氾濫が多かったようで、昭和ごろまでよく水害にあっている。調査区西側(トレンチ1~4)は、耕作土の下が青灰色粘質土層の厚い堆積となっている。このあたりは蓮沼の字が付いており、深さ2m以上の湿地だったようである。埋築の名の由来は、この沼を埋めて土地を築いたためともいわれている。

トレンチ 3 では表土下2.4mほどで、純粋な砂層が確認された。砂層からは弥生後期~末期と思われる土器底部片が一点出土している。後述する包含層 1 からの流れ込みの可能性が考えられる。調査区東側(トレンチ $13\sim19$)も西側と同じような状況だが、水田面の標高は $17\sim18$ mほどで、西側より 2 mほど高くなっている。また、トレンチ $13\cdot14\cdot16\cdot17\cdot18$ で河川氾濫による物と思われるレキ砂層が確認された。

地元の方の話によるとトレンチ13・14のあたりは昭和18年水害以前には大岩が祭られており、宝篋印塔が建っていたと聞いたが、今回の調査では大岩を確認することは出来なかった。なお、宝篋印塔の一部(写真10)は水害後に県道脇に集められ、毎日花が飾られている。3個体分以上あり時期幅もありそうだが、磨滅がひどくおおよそ14~15世紀ごろの物としか分らなかった。

調査区北側では耕作土下に微高地が確認できる。トレンチ6・8は調査区 I・II 区で見られる物と同様のレキ基盤層と思われる。トレンチ6では弥生後期土器胴部が出土した。トレンチ8ではレキ層の落ち込みの上に青灰色粘質土が堆積している状況が確認できた。また、レキ層と青灰色粘質土層の境に時期不明の杭列を確認した。トレンチ7などで柱穴と思しいピットの検出が出来た。トレンチ10では南に急な落ち込みが確認された。ここからは荒い卸目の入った陶器擂鉢片が出土した。おそらく中世の物と思われるが、産地時期などは不明である。調査区北側以北は1mほど高くなっており、現在は家屋、及び畑地として利用されている。おそらく遺構はこの微高地にも展開していると考えられる。今回調査された建物はレキ基盤層上に立地し、現在調査区周辺にある建物も概ねこのレキ層上にある。平地に建物を建てる場合には湿地を避け、レキ層や微高地を選択している為に多時期において居住域が重複すると考えられる。なお、蛇行河川の地質的特徴については、参考文献32に詳しい。





第2節 縄文時代·弥生時代

1 **溝状遺構** 1 (第5図、写真4)

確認調査時に検出された遺構で、ゆるく曲がっている。底部はレキ層に掘り込まれており、断面形状は若干U字状を呈す。底部に青灰色粘質土が堆積している。おそらく遺構上面は削平されており、調査区内での遺物はほとんど確認できなかったが、溝状遺構 1 溝底より35 c m浮いた場所で遺物が出土した。(第16図-12) 時期は弥生前期である。

2 包含層 1 (第5図、写真5・6)

包含層下層は、ほ場事業の範囲が及ばなかったため、一部確認のためトレンチ調査を行った。明確な遺構は確認できなかったが、調査区南方に傾斜するレキ基盤層上に流入した堆積層のようである。レキ層の落ち込みは丘陵を東から西へ傾斜横断する流路のようだが、性格は不明である。遺物を層位ごとに抽出することは出来たが、出土状況は堆積時の撹乱による層位の逆転を現しているようである(グラフ2)。遺物は大まかに形式分類を行った(表 4)。包含層の堆積時期は、縄文土器を伴ってはいるが、最下層で弥生後期の土器が出土していることから弥生後期以降に流れ込んだと考えられる。付近に当該期の集落遺跡が存在するものと考えられる。この包含層は中世以降に造成をかけられている。

3 縄文時代・弥生時代の遺物について(第15図~20図、写真11~17、表 2~7、グラフ 2~4) **縄文時代**(第15図、写真11)

包含層1からの出土が主なものである。量は少なく細片の為器種の同定は困難だが、黒色磨研で条痕を施すもの、口縁内側に沈線を施すものなどある。1浅鉢は胎土色調などから縄文土器としたが、周辺地域で同一の鉢を見ないので焼成不良の弥生中期坏の可能性も考えられる。突帯文深鉢土器は口縁の破片ばかりで形態は不明だが、破片数は多い。口縁から突帯が離れるものと、口縁と突帯を同時処理する物、突帯にキザミの無い物、突帯が退化したと思われる薄い粘土帯を貼り付けたものなどバリエーションがある。胴部破片には穿孔されているものがある。その他2重突帯文深鉢29が一点ある。5と併せて若干瀬戸内方面からの物資流入が認められる。

弥生時代(第16図~20図、写真12~17)

前 期 溝状遺構 1 から前期の壷12が出土した。前期土器は胎土中の砂粒に大粒の物が多く入り、丸砂を含むものと角砂を含むものに分かれる傾向にある。器種構成は壷、甕、鉢、蓋の 4 種に分かれる。口縁は発達せずに上方に引き上げられる物から、発達して大きく外反する物まで見られる。口縁形態は大まかに端部丸い物、面を持つもの、面をもちキザミの入る物に分かれる。壷の段は、発達しない口縁直下より段が施される物から頚部下方より段の始まる物まである。また、段の代わりに沈線が施される物がある。胴部文様は二枚貝による綾杉文が多数を占めるが、ヘラによる施文も認められる。第16図11・13は鉢と思われる。鉢は破片からは個体の同定は難しく、口縁付近は甕として、底部は壷として分類された物が多いと思われる。甕、鉢は無文のものが圧倒的に多い。沈線は 1 条~5 条までと多条がある。多条のものは中期として取り扱ったが数は少ない。 1 条の物から多条の物へ減少していく傾向がある(グラフ4)。今回の調査では Ⅱ 様式を抽出することは出来なかった。前期の遺物量は包含層中2番目に多い。蓋は一点のみ確認された。

- 中 期 胎土に大粒の砂粒は含まなくなり細砂粒を多く含むようになる。包含層中の出土量は最も多い。器種構成はバリエーションが豊富になるようで壷、甕、鉢、高坏が確認された。壷の装飾は口縁と頚部に集中している。口縁は直行して面を持つものと外反して端部が垂下する物に分かれる。端部の装飾は鋭い工具を使ったキザミと斜格子文が大半を占め、一部に円形浮文や、鋸歯文、波状文が認められる。頚部の装飾には突帯文が用いられており、キザミの入る物と入らない物に分かれる。頚部に指頭圧痕文帯をめぐらせる個体も数は少ないが認められる。甕は薄造りの無文甕が圧倒的に多い。口縁は水平方向に外反し、端部は丸く収まる物、面を持つもの、面をもちキザミの入る物が認められる。また、端部を上方に少し突出させる物も見られる。甕は基本的に頚部以下に装飾を施していないが、指頭圧痕文帯を持つもの3点、胴部に刺突を持つもの1点が確認された。鉢は明分化されて来ているようだが、若干前期的なものも残るようである。装飾は壷と同様な突帯や、指頭圧痕文帯が施されているものがある。中期に入って高坏が確認されるが、既に坏端部が発達しており、斜格子文の施されている物もある。他の文様は未確認である。脚の充填部は大きく、後期のような刺突痕跡は見られない。脚端部は一点のみ確認されたが、沈線で区画された斜格子文(綾杉の可能性あり)が施されていた。蓋は確認されなかった。全体的に後葉の物は極端に少ない。
- 後期 胎土に大きめの砂粒を含むものもあるが、全体的に細砂粒を含む。器種構成は壷、甕、高坏、低脚坏、器台、甑型土器、紡錘車が確認された。壷、甕口縁は発達した端部に2~3条の沈線が入る物から明確な複合口縁に櫛描直線文が施される物がある。その他、口縁が縮約され無文となる物、小型品などがあるが、端部に面を持つ物や折り返すもの、口縁が内傾する壷はない。また、外来形と思われる単純口縁のものがある。甕では、口縁の外反が強くなり、無文となるものはあるが、壷同様に端部に面を持つ物や折り返すものはない。高坏は内彎する坏部を持つ。脚面に穿孔された外来系の脚一点が確認された。低脚坏は少量出土する。器台は筒部が発達し器受部、脚台部に櫛描直線文の施された物と、筒部が縮約し無文となる物がある。甑型土器は突帯の廻らない大型品の破片が3点出土している。胴部転用の紡錘車が一点確認された。中期後葉に引き続き後期前葉の土器は極端に少ない。

4 小 結

突帯文深鉢がまとまって出土するため、縄文晩期頃から弥生前期にかけて人の定着化が進んだと思われるが、弥生前期初頭の土器は明確な物が見当たらなかった。突帯文土器及び弥生前期甕の口縁キザミ目施文率はきわめて低い。突帯文土器と弥生前期土器の共伴関係や連続性については不明である。Ⅱ様式(文献 8)については、包含層中の出土と言うことと、石見のⅢ様式自体が不鮮明な為様式として捕らえられなかった。Ⅳ様式~Ⅴ様式─1にかけての土器は極端に少ない。今回の調査では中期はⅢ様式の範疇で収まっている可能性もある。これには生活エリアの変化が考えられる。古八幡付近遺跡(文献76)で丘陵上に環濠をめぐらせた中期中葉~後期初頭にかけての集落が確認されているが、集落の遺物は環濠中に堆積したため、環濠より下方では当該期の遺物が出土しなかった。埋築遺跡周辺でも集落が移動した為に包含層に当該時期の遺物が混ざらなかった可能性が考えられる。

第3節 古代~中世·近世

1 中世の遺構について (第6図~14図、表2、グラフ1、写真7~10)

今回の調査では東西方向に低湿地が展開する舌状の扇状地上で掘立柱建物跡を中心とした2つの遺構群が検出された。調査は建物の建つ敷地の西側について行われ、敷地の東側については不明である。両調査区とも敷地内で柱穴の粗密が見られる。おそらく柱穴のあまりない場所は空き地として活用された空間と考えられる。また、II 区は屋敷墓を伴う建物群と認識した。 I 区の遺構は大まかに南北軸に沿って忠実に建てられた一群(建物1~3)と、若干東に軸がぶれる一群(建物4、柱列1・2)がある。建物1~3は調査区南方へ伸びる可能性を持っており、おそらく同規模の建物を建て替えたものと思われるが、使用されている間尺や柱穴規模には変化が見られる。建物4は柱列1・2とほぼ同軸の為、おそらく柵列のようなもので区画された建物と思われる。 II 区の遺構は建物8を除き全体的に西へ軸を振っているが、 I 区と似た遺構の配置を見せる。 II 区も柱列3・4により区画された時期があり、軸がほぼ一致する建物5・9が対応すると思われる。

遺構の計測について

遺構の計測はメートル法を使用しているが、遺跡の表現方法として尺貫法も併用する。現在一尺の長さは30.3cmとされているが、建築時に使用した間尺の誤差や建築誤差など考慮し、一尺を30cmとすることで模式的に扱う。なお、本文、図版中共にPは柱穴の略称として使用する。

- **建物1** 南北軸に正確に乗っている。建物は南に伸びる可能性のある総柱建物と思われる。北西隅に1間ほど張り出している。柱穴規模は $30\sim60$ cm程で、梁行きは $7\cdot8\cdot9$ 尺、桁行きは $6\cdot7.5\cdot8\cdot9$ 尺の間尺を使用している。
- **建物2** 東西軸に正確に乗っている。建物は南に伸びる可能性があり、総柱建物、若しくは中抜け側柱建物と思われる。柱穴規模は $40\sim60$ cmほどで、梁行きは $7\cdot8\cdot8.5$ 尺、桁行きは $6\cdot7\cdot8$ 尺の間尺を使用している。
- **建物3** 南北軸に正確に乗っている。建物は南に伸びる可能性のある総柱建物と思われる。柱穴規模は $30\sim50$ cmほどで、使用する間尺は8尺とほぼそろっており、梁行きは $7.5\cdot8\cdot9$ 尺、桁行きは8尺の間尺を使用している。
- **建物4** 東西軸から若干東に振って建てられている。西側の梁行き柱を検出できなかった為建物は西に伸びる可能性があると考えたが、柱列2が接する為ここで終わる建物の可能性が強い。中抜け側柱建物と思われる。柱穴規模は20~50cmほどで、梁行き、桁行き共7・7.5・8尺を使用している。
- 建物5 南北軸から西に振って建てられている。ほぼ正方形の中抜け側柱建物と思われる。P1・2 間はトレンチのため柱穴の確認は出来なかったが、おそらく柱が存在したと考える。柱穴規模は20~50cmほどで、梁行き4・4.5・5.5・6尺、桁行きは4.5・5・5.5・6尺を使用している。外側の梁行き間で柱穴の小さな物が一つおきに見られる。P5より備前系と思われる甕胴部が出土した(写真19)。中近世遺物分類表の中世陶器9点と同一個体と思われる。時期は14~15世紀だろうか? 遺構時期を表す上限である。
- 建物6 建物5と同様に南北軸から西に振って建てられている。ほぼ正方形の側柱建物と思われる。 柱穴規模は30~50cmほどで、梁行き4~5尺、桁行きは6尺を使用している。平面規模は建物 5の1/4である。調査当初、建物5と同規模の建物を想定していたが、その他の関連柱穴は確

認できなかった。梁行き間の間尺が伸びている。

- **建物7** 建物 5 · 6 と同様に南北軸から西に振って建てられている。建物の南西隅で柱穴が検出されなかったのは、地形が傾斜しており、盛り土が流れた為と思われる。総柱建物の可能性が考えられる。 $35\sim40$ cmの柱穴規模を持ち、梁行き $4\sim5$ 尺、桁行きは $9\cdot10\cdot11$ 尺を使用している。桁行きは梁行きの倍の間尺を持つ。
- **建物8** 東西方向に軸をとる側柱建物で、II 区の北端に位置する。どちらかと言えばI 区の建物に近い建て軸だが、間尺はII 区の建物とそろう。柱穴規模は $20\sim40$ cmほどで、梁行き $4\cdot6$ 尺、桁行きは5 尺を使用している。西側の梁は10 尺あるが、P1 とP7 の間に柱が立っていた可能性もある。P7 の距離とP9-10の距離は等しく、P4 は別の遺構、もしくは補助材の可能性が考えられる。P7 は柱穴底面に礎石が入っているが、これは西に向かって落ち込んでいるレキ層上に堆積した土がP7 の基盤層になっている為、柱穴の沈下を防止する目的で入れられた物と思われる。
- **建物9** 東西軸から西に振る掘り方のごく浅い建物で、柱列3・4と同軸をとる。柱穴規模は30~40cmで、梁行き9尺、桁行きは14尺を使用している。桁行き間に柱の入る可能性も考えたが遺構の検出は出来なかった。
- **建物10** 南北軸から西へ振る建物で、建物9の建て軸と直交する。形態は建物7に類似しているが、建て替えの可能性は不明。柱穴規模は20~40cmで、梁行き7尺強、桁行きは7・8.5尺を使用している。建物7と同様、南西側は柱穴の検出が出来なかった。
- **柱列1・2** おそらく2列で一組となる性質のようで、南北軸より東に振れ、平行して走る柱列である。柱列間距離は12.2mあり、約4尺の柱列間で企画された物と思われる。柱穴規模は20~50cmで、柱間距離は7・8・9・10.5・11.5・12.5尺と幅がある。性格は不明だが、敷地を区画する柵列を想定する。建て替えの痕跡が認められない為、一時的な物だったようである。建物4が同軸で存在する。
- 柱列3・4 おそらく2列で一組となる性質のようで、南北軸より西に振れ、平行して走る柱列である。柱列間距離は10.9mあり、約3.6尺の柱列間で企画された物と思われる。柱穴規模は20~50cmで、柱間距離はおよそ8~9.5尺と、柱列1・2と比べて幅が少ない。性格は不明だが、柱列1・2同様敷地を区画する柵列を想定する。建て替えの痕跡が認められない為、柱列1・2と同様、一時的な物だったようである。柱列1・2と同等の性質が認められ、両者が並存した可能性も考えたが、柱間距離に差異が認められる為、明言できない。
- 土坑墓1 Ⅱ区の西側で検出された土坑で長方形に掘り込まれていた。土坑の北隅に土師器坏一点、 皿五点、中央に短刀一振りが埋納されていた為、墓坑と判断した。おそらく死者は北頭西顔屈脚 で長方形の棺に納められ、短刀を胸上に安置し、土師器を土坑と棺の隙間に収めた後埋葬された と考えられる。墓坑周辺ではあまり柱穴が検出されず建物も復元できなかった。
- 性格不明遺構 I区の土坑1~3は性格不明だが、土坑3で石組み囲いが確認され、井戸状遺構、若しくは木桶墓を想定した。II区で土坑墓1と共に検出された溝状遺構2は土坑墓と切りあい関係にあったが、分層出来無かった。しかし、出土した坏を比べると土坑墓資料より若干古い印象を受けた。溝状遺構3・4は浅く残っている。柱列3や建物8・9と軸が揃っており関係ありそうだが性格は不明である。屋根からの雨垂れによって出来たものかもしれないが明言は出来ない。

- **2 古代~中世・近世の遺物について**(第21図·写真18~21)(表 3 · 4 · 5 · 6、グラフ 2)
- 古代 古墳時代から奈良時代の遺物は出土していない。平安時代に入ると8糸切り柱状高台と9 坏口縁の2点の土器が確認できる。瓦の中に縄目の残る瓦が一点ある。9と同形態の坏は波来浜遺跡でまとまって出土している。
- 中 世 中世の器種構成は土師器坏、須恵器甕・鉢、陶器甕・擂鉢、貿易磁器である。磁器は龍泉 窯系の青磁で占められており、中世前半の白磁が一点のみ混ざっている。青磁は大宰府磁器区分 E期(13世紀前後~前半)とG期(14世紀初頭~14世紀後半?)の物に分かれる。口縁外面に沈線の施された土師器小皿19や格子目タタキの薄造り甕が出土している。中世須恵器の内、備前系 擂鉢は15世紀前葉と思われる。その他の中世須恵器は産地時期等不明である。甕の他に小型品も 含まれる。小型の甕若しくは、壷のような物を想定する。
- 土坑墓1の資料 土師器は相対的に比べて白っぽく薄造りの1(溝状遺構2出土)が精製された橙色の2~5と比べて古い印象を受ける。短刀は切っ先が欠損している可能性がある。刀長8寸ほど・平造り・刃先内反り等鎌倉初期から中期の特徴を備えているが、室町後期にもよく似たものが打たれている。
- 近世以降 18世紀に一つのまとまりが見られる。器種構成は磁器碗・皿・猪口、陶器甕・皿・擂鉢で、肥前系で占められている。染付けは の発色が深い優品が若干含まれるが、ほとんどは浅い発色の物である。高台の付く擂鉢は唐津系、若しくは出現期の石見焼のようだが現時点では不明。 19世紀以降に見られるいぶし瓦が出土しているが、この時期の他の遺物出土量は少ない。器種構成は瓦、陶器甕・壷・鉢・擂鉢がある。擂鉢に関しては石見焼だが、その他石見焼系統と思われるものの産地不明の陶器がある。

3 小 結

出土遺物より、中世の遺跡は大まかに13世紀前半ころと14世紀ころの 2 時期に分かれる。 I 区の建物で使用する間尺は 5 尺以下、 9 尺以上のものを含まず、梁・桁行き共にほぼ等しい間尺を使用しており、方位を意識した規格性の高い建物群である。逆に II 区では 5 尺以下、 9 尺以上の間尺も使い、梁行きは縮小、桁行きは伸びる傾向にある。ここで重要なカギを握るのは建物 5 の存在である。柱穴出土遺物により、およそ14世紀~15世紀にかけての建物であると思われるが、使用間尺は 4 ~6.5 尺と I 区より短い間尺を使い、梁行きと桁行きの規模が等しい両地区の中間的な建物である。 I 区が II 区より古い様相を呈しているが、果たして、 I 区(~13世紀)→建物 5(14~15世紀) → II 区(15世紀~)と素直に移行するのか?今後の類例をまって検討したい。

第4章 まとめにかえて

今回の報告で使用したグラフの説明を行ないまとめにかえる。

グラフ1は復元した中世遺構の柱間距離を表から起こしたもので、例えば梁1は建物1の梁行き間を表す。グラフではⅠ区の遺構とⅡ区の遺構で柱間距離の変化が現れている。

グラフ 2 は表 6 を基に遺跡から出土した分類可能遺物を時期・器種・層位ごとに集計した物である。縄文時代は遺物量が少ないが、突帯文深鉢の割合は飛び抜けて多い。一部は弥生前期に入るが、細分できなかった為、今回の報告ではあえて縄文土器とした。弥生前期に入ると全体の出土量が増える。主な器種構成は壷・甕になるが、壷は甕の1/2ほどの出土だった。鉢は部分による分類がうまくいかず、不確定な破片は壷底部と甕口縁に振り分けられている。弥生中期に入ると全体的な出土量は、ピークに達する。壷甕共に前期の出土量を上回るが、壷の割合が甕の3/4となる。後期に入ると全体の出土量は激減し、壷は甕の1/2を下回る。ただし、今回の調査では細片が多かったため、口縁のみで壷甕を明確に分類することは出来なかった。今後の周辺地域の様子と照らし合せて考えていきたい。なお、今回の調査では中期と後期の間に、IV様式が抜けている。

ここまでがおよそ包含層1の出土遺物であるが、層位ごとで見ると、包含層1層にあたる7層では縄文遺物は出土しなかった。しかし包含層最下層にあたる12層で弥生末期の土器が量的なまとまりをもって出土していることから、やはり包含層は弥生末期に動いていたことが確認できた。なお、遺物の出土量が充実しているのは最下層より1層上層にあたる11層で、全体を通じて出土量は多い。これらのことがらを裏付けるために、グラフ3を作成した。このグラフでは、分類不可能な特徴のない胴部破片を集計しており、グラフ2とは、補完関係にある。これにより、埋築遺跡における全遺物が分類・カウントされたことになる。グラフ3のデータベースでは色調・厚さ・砂粒の状態・凡その部位を集計したが、グラフでは砂粒の大小と部位を層位ごとに分けた。点数が多いので、グラフ2での集計誤差を補えると思うが、グラフ3で見ても11層が一番多く、次に、12層・10層の順で出土量は減少していく。ちなみに、砂粒の大小に分けたのは、前期の土器に砂粒の多い物が圧倒的に多く、縄文土器・弥生中期~末期は比較的砂粒が細かい事に着目して分けたもので、縄文・弥生後期~末期の出土量が少ない為、凡そ弥生前期と中期を比較出来ると考えたからである。グラフからは、全体の出土量は中期が多く、最下層における出土量も中期が多いと分る。

グラフ4は弥生前期の胴部沈線の本数を集計したもので、1条~や2条~などの不確定なデータをはずしても、沈線の数が増える物は相対的に少ない傾向にあることがわかった。

グラフ5は弥生土器の底部を底径と砂粒の大小ごとに集計したもので、凡そ前期と中期での底径の変化を表している。予想していたようには行かなかったが、ある程度のグルーピングは可能と思われる。今後の類例を増やして、器種の規格化の変化を捉えられるよう考えたい。

なお、グラフ2において、中世以降の遺物については出土点数が少なかった為うまくグラフで表現できなかったが、やはり土師器は消費量が多いことが確認できた。

今回の分類結果は遺跡の全体像を把握する意味において有意義だったが、周辺の状況との比較が 出来ないので、今後の調査の叩き台として提示するに留める。過去の調査を洗い直すなど、今後類 例を増やし、相対的に考察していきたいと考える。

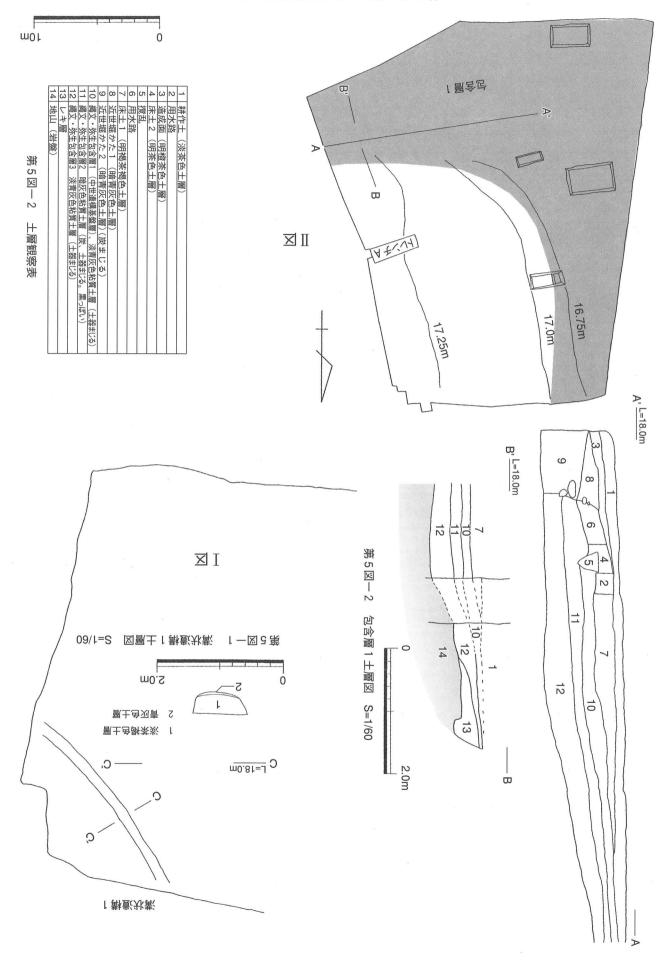
今回の分類は調査員の力量不足のため細部に渡り不備な点がある事をお詫びし、今後の報告で随 時訂正をおこなうこととする。

参考文献

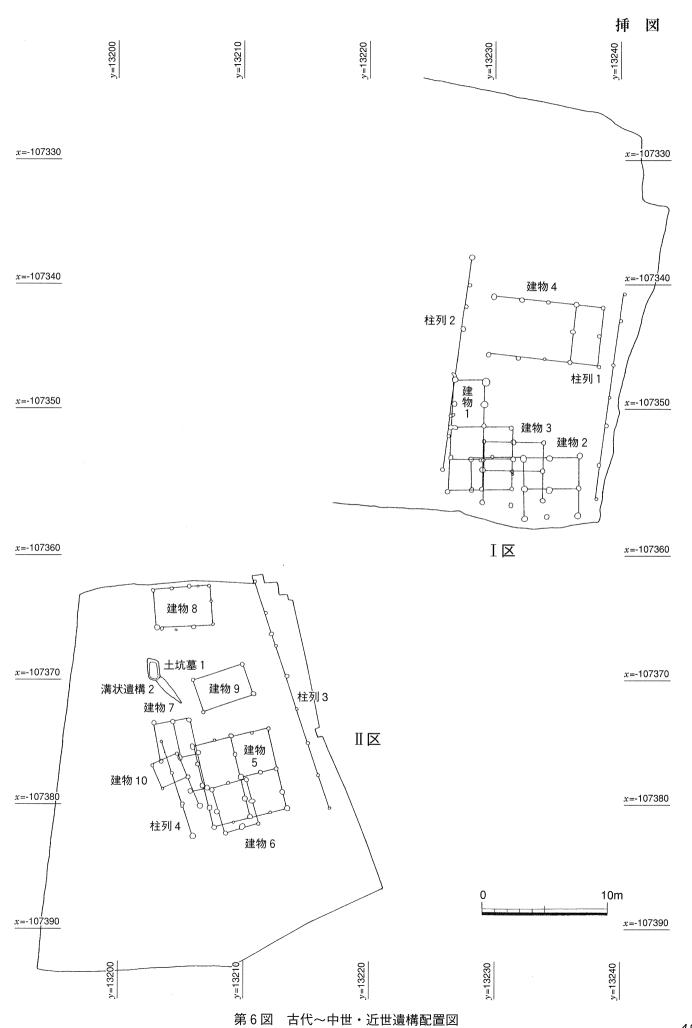
調査及び報告書作成について以下の文献資料を参考とした

縄文時代			***************************************
1	2000年3月	三田谷 I 遺跡 Vol. 3	建設省中国地方建設局 島根県教育委員会
2	2000年2月		土器持寄会論文集刊行会
3	2000年9月	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	山陰考古学研究集会
4	昭和58年12月		渡辺 誠
<u>5</u>	昭和50年9月	八雲立つ風土記の丘 No.14 (山陰の縄文式土器一宍道正年)	島根県立八雲立つ風土記の丘
7	1999年6月	中・四国縄文時代研究の現状と課題 松江考古第3号 島根県の縄文土器の研究-編年を中心として-	中四国縄文研究会
	1900-4-9-71	松江与日第3万 局低県の縄又土器の研究=欄中を中心として	宍道 正年
弥生時代			
8	1992年 5 月		正岡 睦夫・松本 岩雄
9	2001年11月	第3回 西伯耆弥生集落検討会 山陰地方における弥生時代前期の地域相一資料集-	西伯耆弥生集落検討会
10	2000年2月	川向遺跡 多陀寺荒廃砂防事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	島根県浜田土木建築事務所
11	2000年	古代吉備 第22集 中四国における初期弥生墓制の変容一礫石使用墓	島根県浜田市教育委員会 小林 青樹
12	2000年11月	と列状墓群の動向を中心に一 みずほ第34号 論文 口縁端部を刻まない甕―山陰地域の遠賀川式土器―	濱田 延充
13	1986年1月	弥生文化の研究 7. 弥生集落	金関 恕・佐原 眞
14			永井 昌文·那須 孝悌·
		弥生文化の研究 1. 弥生人とその環境	金関 恕・佐原 眞
15	昭和52年3月	八雲立つ風土記の丘研究紀要Ⅰ 弥生式土器集成	島根県立八雲立つ風土記の丘資料館
16	昭和35年2月	日本農耕文化の生成	杉原 荘介
17	2000年 3 月	遺跡出土の焼成粘土塊・焼成剥離土器片からみた弥生土器の生産・供 給形態	田崎 博之
18	1986年2月	日本考古学 4 集落と祭祀 農耕集落	甲元眞之
19	2000年2月	第47回埋蔵文化財研究集会 弥生文化の成立-各地域における弥生文 化成立期の具体像-	埋蔵文化財研究会
20	1996年	山陰の後期弥生土器における編年と地域間関係	(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 中川 寧
	2000年3月		(財)鳥取県教育文化財団
21	2001年3月	青谷上寺地遺跡1・2・3	国土交通省 鳥取工事事務所
22	1995年 3 月	古代 第九九号 前期弥生土器出現	豆谷 和之
23	平成12年3月	国立歷史民俗博物館研究報告第83集	
		出雲平野における弥生文化の成立過程	藤尾慎一郎 大山スイス村埋蔵文化財発掘調査団
24	2000年3月	妻木晚田遺跡発掘調査報告	鳥取県大山町教育委員会
中世全般			
25	2000年 9 月	季刊考古学 中世考古学への招待	坂詰 秀一
26	1993年	古代文化研究第1号 (戦国期石見小笠原権力と地域社会構造-日本	
		海(東海)西部地域における権力と江の川水系社会の生産・流通一)	佐伯 徳哉
27	2001年2月	図解・日本の中世遺跡	小野 正敏
28	1991年11月	初期中世社会史の研究	戸田 芳実
29	1996年 3 月	草戸千軒町遺跡発掘調査報告 V 中世瀬戸内の集落遺跡	広島県草戸千軒町遺跡調査研究所編
30	1994年	上久々茂土居跡・大峠遺跡――般国道191号改築に伴う埋蔵文化財発	島根県教育委員会
31	1993年	掘調査報告書 古市遺跡概報	建設省浜田工事事務所
32		横路遺跡(土器土地区)	浜田市教育委員会
33	1998年	横路遺跡(原井ヶ市地区)	浜田市教育委員会 浜田市教育委員会
34	1998年 3 月	七尾城跡・三宅御土居跡	益田市教育委員会
35	1993年 3 月	山名氏館跡推定地発掘調査報告書	倉吉市教育委員会
36	昭和53年3月	日本史小百科 墳墓	斎藤 忠
37	1993年 7 月	帝京大学山梨文化財研究所シンポジウム報告書 中世社会と墳墓―考	石井 進・萩原三雄 編
38	1097年	古学と中世史研究3- 山陰地域研究第3号 中世の江津と都野氏	
	1987年	中国横断自動車道広島浜田線建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 Ⅲ	島根大学山陰地域研究総合センター 井上寛司
39	1991年	福家氏の城郭	寺井 毅
40	1998年	清石遺跡外発掘調査報告書	仁摩町教育委員会
中世遺構			
41	昭和61年4月	ふるさとの住い	芸北町教育委員会
42	1983年 4 月	日本人のすまい。住居と生活の歴史	云心門教育委員会 一
43	1996年1月	考古学による日本歴史 15 家族と住まい	前川 要
44	平成元年3月	紀要 IX 掘立柱建物跡の間尺とその時代性	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
45	平成9年3月	紀要 X W 12世紀平泉の四面廂掘立柱建物	高橋 与右衛門 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
	TE-B-O-F-O-F		松本 建速 (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
46	平成9年3月	紀要 X VI 岩手県平泉町における近世掘立柱民家について	羽柴 直人
47	1998年 2 月 1998年 3 月	シンポジウム「掘立柱建物はいつまで残ったか」 ${ m I} \cdot { m II}$ 発表資料	奈良国立文化財研究所
中世遺物			
48	1998年8月	第26回山陰考古学研究集会 山陰における中世前期の貿易陶磁器	山陰考古学研究集会
49	1995年 9 月 1995年12月	刀剣鑑定読本	永山 光幹
Γ0		概説 中世の土器・陶磁器	中世土器研究会編
50 51		松汀老士 第 8 日	
51	1992年12月	松江考古 第8号	松江考古学談話会
		松江考古 第8号 大宰府陶磁器研究 - 森田 勉氏遺稿集・追悼論文集-	

	54	1998年		日本貿易陶磁研究会
	55 56	1992年12月	中世土器研究序論 九州歴史資料館研究論集 4 太宰府出土の輸入陶磁器について 一形式分類と編年を中心として一	橋本 久和 横田賢次郎・森田 勤
	57	1991年	考古学ライブラリー 60 備前焼	真壁忠彦
	世			
				東京消防庁
	58	1991年	「四谷三丁目遺跡」別冊 江戸遺跡検出のやきもの分類(兼凡例)	新宿区四谷三丁目遺跡調査団
-	59	2000年3月	志津見ダム関連埋蔵文化財発掘調査報告書 弓谷たたら	建設省中国地方建設局
				島根県頓原町教育委員会
	60	昭和46年3月	須佐唐津窯 パー100 100(万見焼の縄木畑)	須佐町教育委員会
	61	1993年12月	八雲立つ風土記の丘 No.122,123(石見焼の調査例) 八雲立つ風土記の丘 No.124 (近世赤瓦の技術系譜-久保智康)	島根県立八雲立つ風土記の丘 島根県立八雲立つ風土記の丘
	63	2000年2月	伝統的工芸品 石見焼手引書	石見陶器工業協同組合
	64	2000 271	築窯四代記 抄	平田 正典
		000145 0 日		国土交通省浜田工事事務所
	65	2001年 3 月	石見焼関連遺跡調査報告 2 上府八反原窯跡(佐々木窯跡)	島根県教育委員会
	66	2001年3月	石見焼関連遺跡調査報告1 (飯田A遺跡・長東坊師窯跡)	国土交通省浜田工事事務所
			——般国道 9 号江津道路予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 V —	島根県教育委員会
	67 68	1992年 3 月	石見空港建設予定地内遺跡 埋蔵文化財発掘調査報告書 古伊万里の文様	島根県教育委員会 大橋 康二
		1994年12月	百伊万里の又体	大倘 尽
È	般			
	69	1999年3月	5 丁地区遺跡群発掘調査報告書	島根県川本農林振興センター
			島根県遺跡地図 Ⅱ(石見編)	島根県仁摩町教育委員会 良根県教育委員会
	70	1992年	- 島根県卓近世城館分布調査報告書〈第1集〉石見の城館跡	島根県教育委員会 島根県教育委員会
		1997年	四4以示丁凡巴州州月11四月刊日言 \ 年1 朱/ 日兄の別問則	四化亦秋日女只云
ī	内			
	72	2000年3月	神主城跡・室崎商店裏遺跡 古八幡付近遺跡・横路古墓	建設省浜田工事事務所
				島根県教育委員会 江津市教育委員会
	73	昭和63年3月	大平山遺跡群調査報告書	浜田市教育委員会
		1005/5 0 日	埋蔵文化財発掘調査報告書I	建設省浜田工事事務所
	74	1995年 3 月	(鹿伏山・半田浜西・二宮C遺跡・久本奥窯跡)	島根県教育委員会
	75	昭和48年3月	波来浜遺跡発掘調査報告書一第1.2次緊急調査概報-	島根県江津市
	76	1992年12月	古八幡付近遺跡	島根県江津市教育委員会
	77	1998年 3 月	古八幡付近遺跡Ⅱ	江津市教育委員会
	78	昭和46年4月	江津地方における埋蔵文化財について	江津市文化財研究会 前島 己基
	79	2001年3月	恵良遺跡、堂々炭窯跡、上条遺跡、水戸(三戸) 神社跡(上条古墳)、	国土交通省浜田工事事務所
			立女遺跡	島根県教育委員会
	80	昭和47年1月 昭和57年6月	都治史伝 江津市誌 上巻 下巻 別巻	藤戸津梁 都治公民館 江津市
	81		平成11年度島根県埋蔵文化センター講演会「焼き物が語る石見の歴史」	
	82	1999年5月	一種文土器から石見焼きまで~	江津市教育委員会
	83	1993年	宮倉遺跡	島根県教育委員会 江津市教育委員会
	84	1992年	平成3年度 埋蔵文化財調査報告書	江津市教育委員会
	85	1991年	江津市立江東中学校改築事業に伴う 文化財調査 I	江津市教育委員会
 睘				
	- 76 	1997年3月	鳥取県の自然と歴史2 砂丘とその周辺(改定版)	鳥取県立博物館
	87		地球科学 第33巻3号	地学団体研究会
	88	1984年	高地性集落と倭国大乱 山陰海岸・江津砂丘地帯の地形	角田 清美
1.70		1304	同地は朱祁とは国人は 四点は 江戸り正地市 シルル	710 (6.5)
山陰				
	89	2000年5月	日本の古代道路を探す 律令国家のアウトバーン	中村 太一
	90	2000年 5 月	季刊 考古学 第46号 特集(古代の道と考古学)	柏書房
	91	1996年	日本考古学協会 1996年度三重大会 シンポジウム2 国府一畿内・七道の様相一	日本考古学協会三重県実行委員会
etr TIII	+0 #-=	/ <u>f-</u> - L		
全理	報告書		AATON BELL (AND THE ECT)	
	92	2001年3月	前田遺跡(第Ⅱ調査区)	島根県八雲村教育委員会
	93	1999年 3 月	松江市文化財調査報告書第78集 本庄地区県営圃場整備事業に伴う 松江北東部遺跡発掘調査報告書	松江市教育委員会 財団法人松江市教育文化振興事業団
	94	1998年 2 月	講座 人文科学研究のための情報処理「第4巻 イメージ処理篇」	及川 昭文 八村広三郎
	95	1998年10月	日本考古学用語辞典	斎藤 忠
				島根県土木部河川課
	96 -	2001年 3 月	西川津遺跡冊	島根県教育委員会
	97	1985年11月	・岩波講座 日本考古学 1研究の方法	岩波書店
	98	1998年 7 月	報告書制作ガイド	奈良国立文化財研究所内
		1000 F 1 /1	IMP P-MATE AT A	埋蔵文化財写真技術研究会
	99	1996年12月	埋蔵文化財ニュース 83 報告書の体裁	奈良国立文化財研究所 埋蔵文化財調査センター
	Au			奈良国立文化財研究所
	100	1998年 1 月	埋蔵文化財ニュース 86 報告書の挿図	埋蔵文化財調査センター
	101	1000年 1 日	押誌文化財= 7 01 和生妻の図版	奈良国立文化財研究所
	101	1999年1月	埋蔵文化財ニュース 91 報告書の図版	埋蔵文化財調査センター
	102	1998年	紀要 X W 埋文センターの考古学 一野外調査・室内整理・報告書	(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センタ
	202	1000 F	作成に関する諸問題-	金子 昭彦

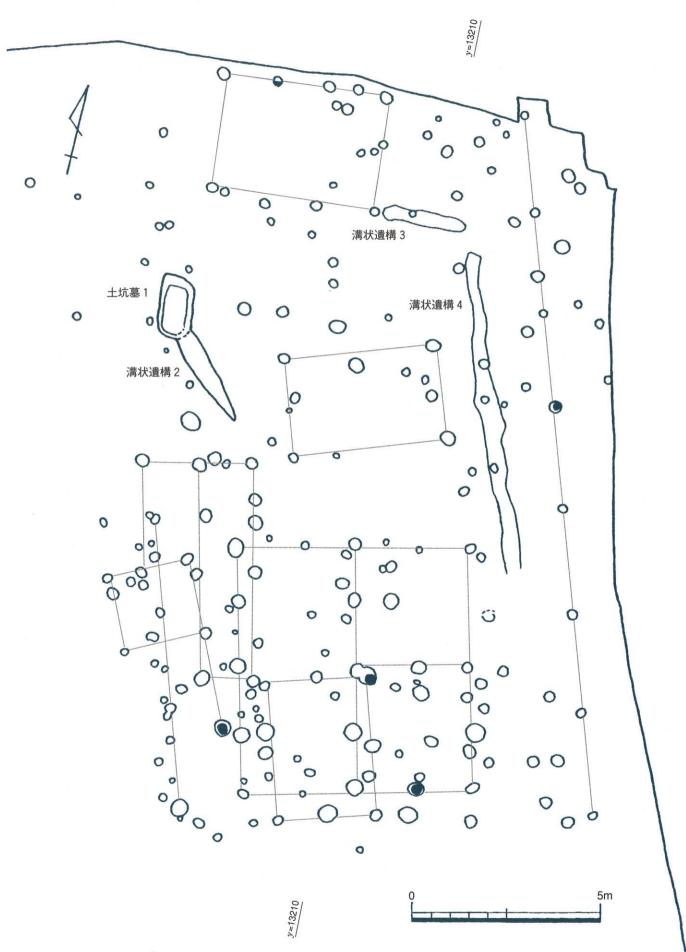


国 韩

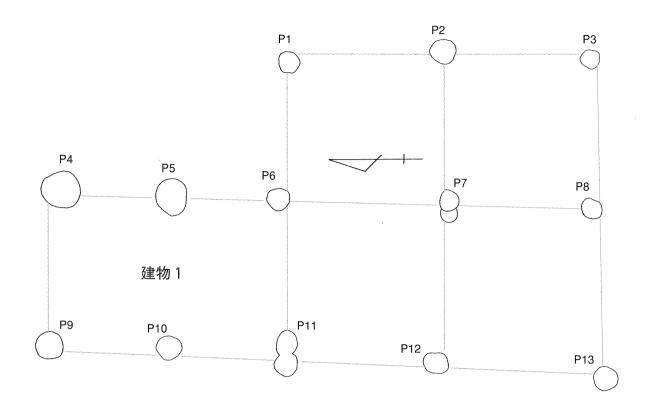


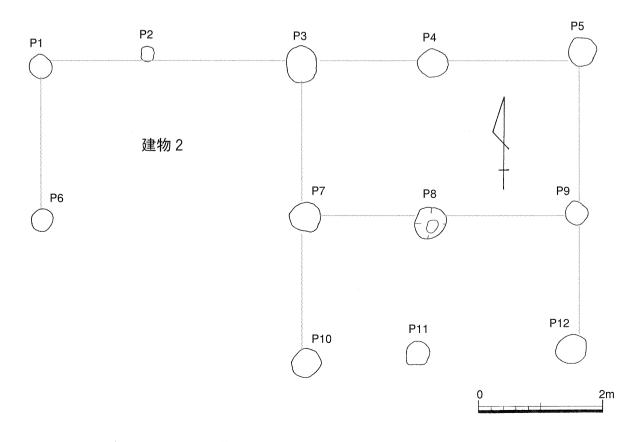


第7図 I区遺構検出状況 S=1/100

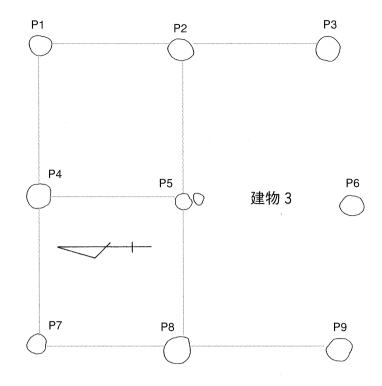


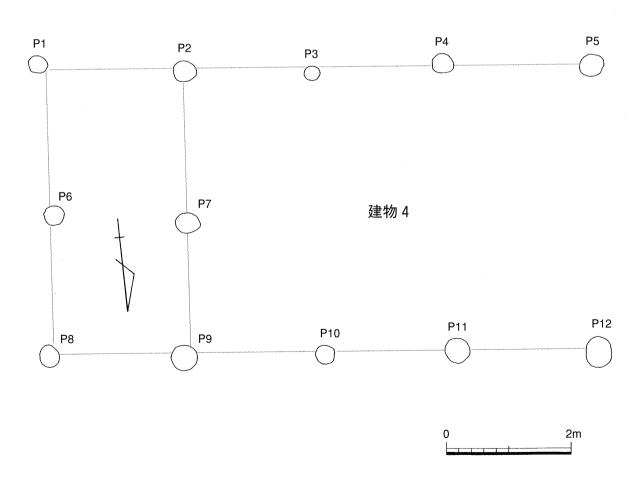
第8図 Ⅱ区遺構検出状況 S=1/100



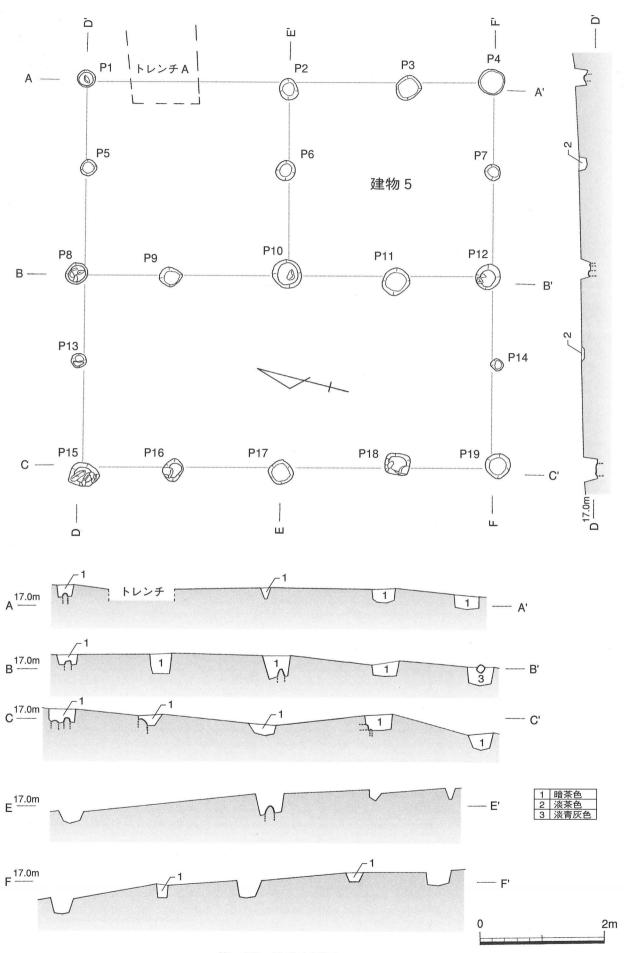


第9図 建物実測図1 S=1/60

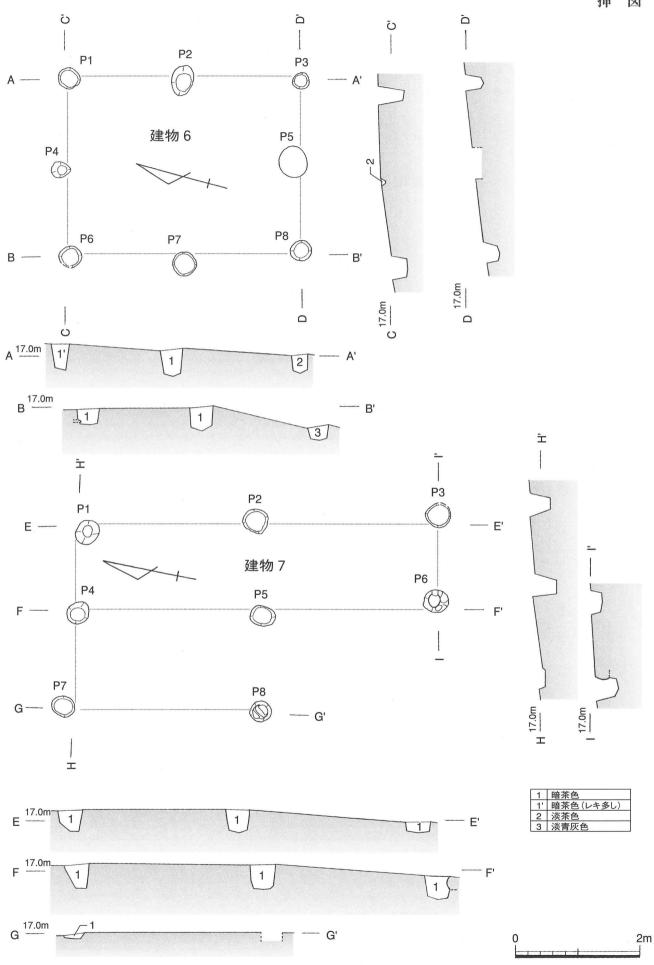




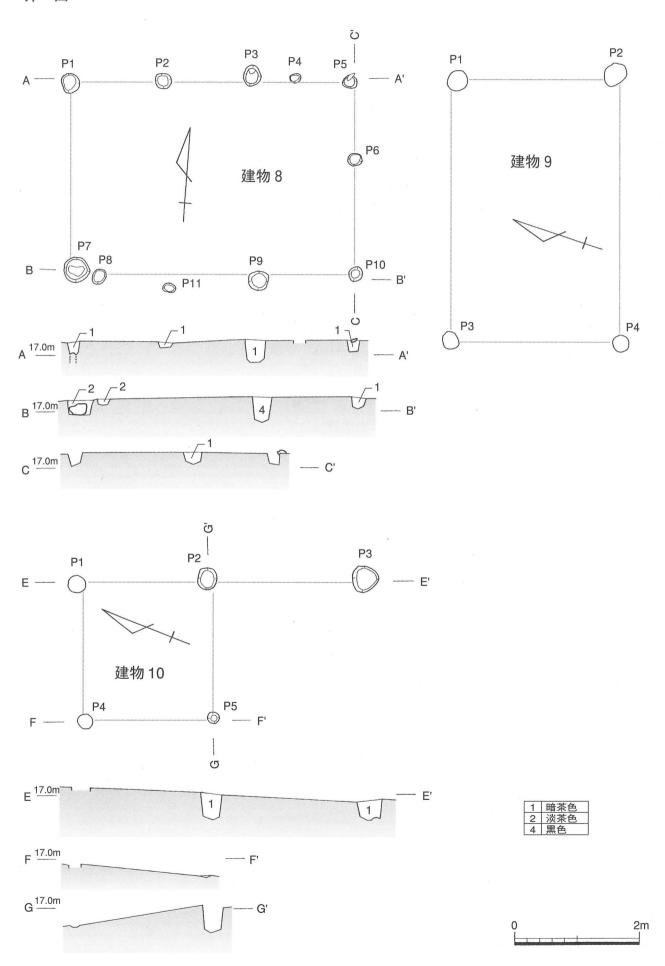
第10図 建物実測図2 S=1/60



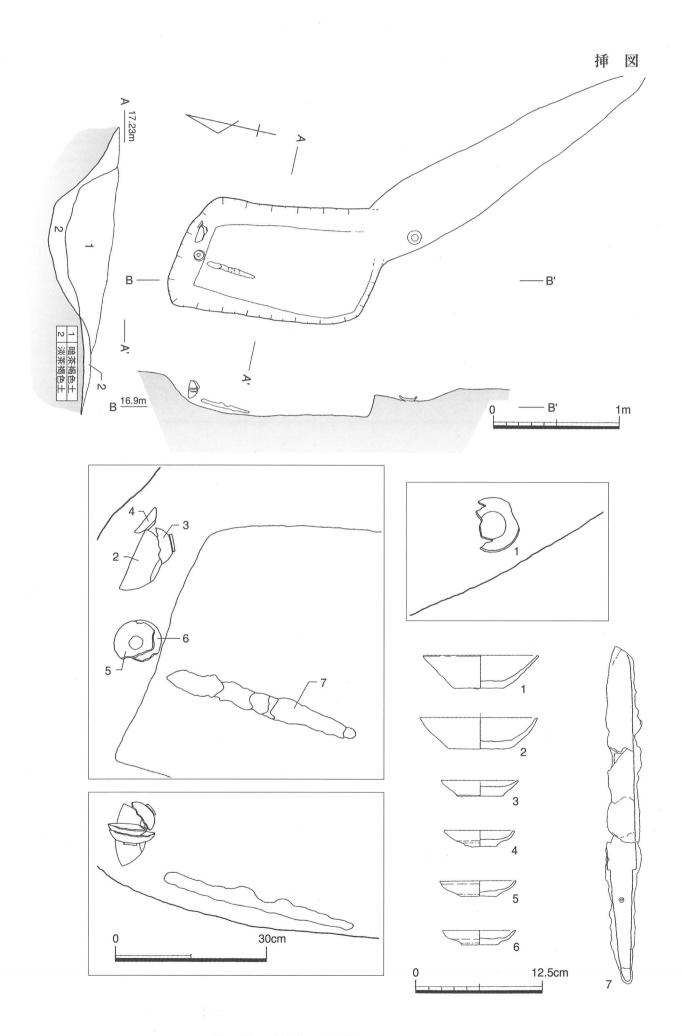
第11図 建物実測図3 S=1/60



第12図 建物実測図 4 S=1/60



第13図 建物実測図5 S=1/60



第14図 土坑墓1実測図 S=1/30

表 2 遺構計測表

遺構計測表 (1)

遺構名		建物1					****			
主軸				N — :	3°-E					
柱穴配置	<u> </u>		梁行		桁行					
規模			2 間			4	間			
(m)			5.11			8.93				
柱間距離	柱間	P4-9	P1-6	P 6 -11	P1-2	P2-3	P4-5	P5-6		
(m)	距離(m)	2.5	2.19	2.64	2.5	2.38	1.8	1.72		
	柱間	P2-7	P 7 -12	P3-8	P6-7	P7-8	P 9 -10	P10-11		
	距離(m)	2.39	2.61	2.41	2.75	2.29	1.92	1.9		
	柱間	P 8 -13			P11-12	P12-13				
	距離(m)	2.7			2.4	2.71				
柱穴等	番号	P1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7		
	上面径(cm)	33×36	42×39	32×31	63×59	49×59	36×36	21×35		
	底面標高(m)		_		_	_	_	_		
	番号	P8	P 9	P10	P11	P12	P13	*		
	上面径(cm)	33×37	45×44	42×39	37×41	42×33	39×39			
	底面標高(m)	_		_						

遺構名		建物 2								
主軸				N -90)° —W					
柱穴配置	柱穴配置梁行					桁	行			
規模			2間~			4 間				
(m)			4.76			8	.7	P3-4 P4-5 2.1 2.41 P6 P7		
柱間距離	柱間	P1-6	P3-7	P7-10	P1-2	P2-3	P3-4	P4-5		
(m)	距離(m)	2.45	2.43	2.34	1.72	2.47	2.1	2.41		
	柱間	P5-9	P 9 -12		P7-8	P8-9				
	距離(m)	2.57	2.19		2.02	2.34				
柱穴等	番号	P1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7		
	上面径(cm)	36×39	20×24	48×59	49×45	46×46	34×36	50×47		
	底面標高(m)		_	_			_			
	番号	P 8	P 9	P10	P11	P12				
	上面径(cm)	51×54	37×39	48×47	37×43	53×46				
	底面標高(m)			-	_					

遺構名		建物 3							
主軸					N90)° —W			
柱穴配置	Ĺ		梁	梁行 桁行					
規模			2 間	∮~			2 間		
(m)			4.:	59			4.78	2間 4.78 P4-7 P2-5 2.38 2.43 P6 P7	
柱間距離	柱間	P1-2	P2-3	P4-5	P7-8	P1-4	P4-7	P2-5	
(m)	距離(m)	2.23	2.36	2.32	2.26	2.4	2.38	2.43	
	柱間	P8-9				P5-8			
	距離(m)	2.59				2.38			
柱穴等	番号	P1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	
	上面径(cm)	35×31	43×35	38×41	39×42	27×22	39×33	31×32	
	底面標高(m)				***************************************	_			
	番号	Р8	P 9						
	上面径(cm)	42×48	42×38						
	底面標高(m)								

遺構計測表 (2)

遺構名		建物 4			ACTION OF THE STATE OF THE STAT					
主軸				N —83	3.5° — W					
柱穴配置	<u> </u>		梁行			桁	行			
規模			2 間			4 🏗	⋾ ~			
(m)			4.67			8.85 P2-3 P3-4 P4-5				
柱間距離	柱間	P1-6	P6-8	P2-7	P1-2	P2-3	P3-4	P4-5		
(m)	距離(m)	2.41	2.26	2.43	2.34	2.05	2.08	2.38		
	柱間	P7-9			P8-9	P9-10	P10-11	P11-12		
	距離(m)	2.16			2.14	2.27	2.11	2.27		
柱穴等	番号	P1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7		
	上面径(cm)	31×29	38×34	25×23	36×31	38×35	32×31	41×33		
	底面標高(m)		_				· 	_		
	番号	P 8	P 9	P10	P11	P12				
	上面径(cm)	31×36	42×42	29×32	40×40	40×49				
	底面標高(m)									

遺構名		建物 5										
主軸					N —1	5°-W						
柱穴配置			梁	行			桁	 行				
規模			4	間	4 間							
(m)			6.2	27			6.	62	P 3 - 4 P 8 - 9 1.33 1.5 P11-12 P15-16 1.48 1.46 P18-19 1.61 P 7 P 8			
柱間距離	柱間	P 1 -5	P5-8	P 8 -13	P13-15	P1-2	P2-3	P3-4	P8-9			
(m)	距離(m)	1.4	1.67	1.38	1.82	3.21	1.92	1.33	1.5			
	柱間	P2-6	P 6 -10	P4-7	P 7 -12	P 9 -10	P10-11	P11-12	P15-16			
	距離(m)	1.27	1.63	1.41	1.67	1.84	1.74	1.48	1.46			
	柱間	P12-14	P14-19			P16-17	P17-18	P18-19				
	距離(m)	1.4	1.63			1.69	1.86	1.61				
柱穴等	番号	P1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8			
	上面径(cm)	29×28	30×35	40×42	42×43	26×26	31×32	24×27	36×35			
	底面標高(m)	17.19	17.1	17.05	16.95	17.13	17.08	17	17.12			
	番号	P 9	P10	P11	P12	P13	P14	P15	P16			
	上面径(cm)	37×32	47×46	45×44	39×41	25×23	21×20	50×42	33×37			
	底面標高(m)	16.92	17	16.87	16.74	17.16	16.74	16.95	16.9			
	番号	P17	P18	P19								
	上面径(cm)	41×40	40×34	40×40								
	底面標高(m)	16.73	16.81	16.5								

遺構名		建物 6								
主軸		Æ 177 U		N — 15	5.5° — W					
柱穴配置	Ì		 梁行			桁	行			
規模			2 間		2間					
(m)			2.86			3.	3.69			
柱間距離	柱間	P1-4	P4-6	P3-5	P1-2	P2-3	P6-7	P7-8		
(m) .	距離(m)	1.46	1.4	1.28	1.83	1.86	1.79	1.88		
	柱間	P5-8								
	距離(m)	1.43								
柱穴等	番号	P1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7		
	上面径(cm)	34×34	34×50	26×27	31×26	44×49	37×36	38×38		
	底面標高(m)	16.8	16.67	16.72	17.08		16.73	16.62		
	番号	P8								
	上面径(cm)	34×33								
	底面標高(m)	16.46								

遺構計測表 (3)

遺構名		建物 7							
主軸				N-12	2°−W				
柱穴配置	Ī	梁行 桁行							
規模			2間~			2 間	∮~		
(m)			2.76			5.0	62	P 4 - 5 P 5 - 6 2.93 2.78 P 6 P 7	
柱間距離	柱間	P1-4	P4-7	P3-6	P1-2	P2-3	P4-5	P5-6	
(m)	距離(m)	1.28	1.48	1.36	2.68	2.94	2.93	2.78	
	柱間				P7-8				
	距離(m)				3.16				
柱穴等	番号	P1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	
	上面径(cm)	38×39	41×42	40×40	34×38	41×34	40×37	38×34	
	底面標高(m)	16.83	16.81	16.81	16.73	16.7	16.54	16.91	
	番号	P 8			-				
	上面径(cm)	35×34							
	底面標高(m)	_							

遺構名		建物 8								
主軸		N-86°-E								
柱穴配置	Ī		梁行			桁	行			
規模			2間			4	間			
(m)			3.05			4.	45			
柱間距離	柱間	P1-7	P5-6	P 6 -10	P1-2	P 2 - 3	P3-4	P4-5		
(m)	距離(m)	2.98	1.24	1.81	1.47	1.42	0.68	0.88		
	柱間				P7-11	P11-9	P 9 -10			
	距離(m)				1.46	1.46	1.51			
柱穴等	番号	P1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7		
	上面径(cm)	29×31	25×24	28×34	18×15	23×20	23×20	42×40		
	底面標高(m)	17.04	17.13	16.88		17.05	17.06	16.95		
	番号	P 8	P 9	P10	P11					
	上面径(cm)	22×26	33×31	21×25	21×15					
	底面標高(m)	17.11	16.83	17.03						

遺構名 建物 9						aure is an incident and the William Communication Communication Communication Communication Communication Commu		
主軸				N-72	°—E		•	
柱穴配置	<u>.</u>	梁行			桁行			
規模		1 間			1 間			
(m)		2.52			4.12			
柱間距離	柱間	P1-2	P3-4		P1-3	P 2 - 4		
(m)	距離(m)	2.52	2.72		4.12	4.26		
柱穴等	番号	P1	P 2	P 3	P 4			
	上面径(cm)	32×33	36×40	24×29	25×27			
	底面標高(m)		-	_				

遺構名		建物10								
主軸			N-21°-W							
柱穴配置	<u> </u>		梁行		桁行					
規模		1 間~			2間~					
(m)	(m)		2.19			4.61				
柱間距離	柱間	P1-4	P2-5		P1-2	P2-3	P4-5			
(m)	距離(m)	2.19	2.22		2.09	2.52	2.05			
柱穴等	番号	P1	P 2	P 3	P 4	P 5				
	上面径(cm)	27×27	30×35	41×42	24×24	19×19				
	底面標高(m)		16.62	16.6		16.71				

遺構計測表 (4)

遺構名		柱列 1							
主軸					N — 8 ° — E				
規模					6 間				
(m)		16.25							
柱間距離	柱間	P1-2	P2-3	P3-4	P4-5	P5-6	P6-7		
(m)	距離(m)	2.15	3.5	2.5	2.2	3.2	2.7		
柱穴等	番号	P1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	
	上面径(cm)	22×20	28×24	25×25	20×20	30×30	33×30	24×24	
	底面標高(m)		_						

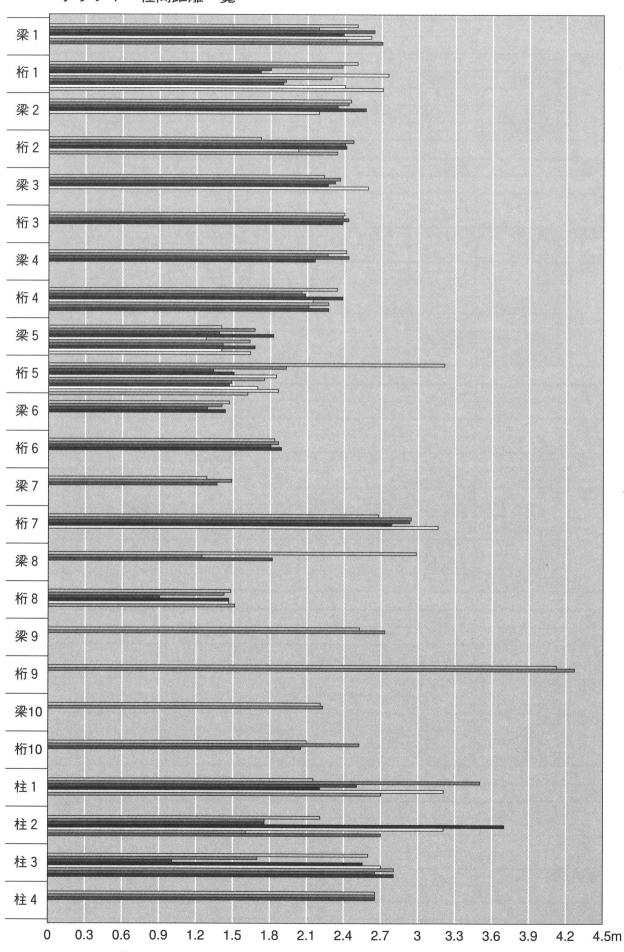
遺構名		柱列 2								
主軸		N — 8 ° — E								
規模					7間					
(m)					16.9					
柱間距離	柱間	P1-2	P2-3	P3-4	P4-5	P5-6	P6-7	P7-8		
(m)	距離(m)	2.2	1.75	1.75	3.7	3.2	1.6	2.7		
柱穴等	番号	P1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7		
	上面径(cm)	40×42	28×30	28×30	36×38	50×27	30×48	28×26		
	底面標高(m)		_		_		_			
	番号	P8								
	上面径(cm)	30×32								
	底面標高(m)	_								

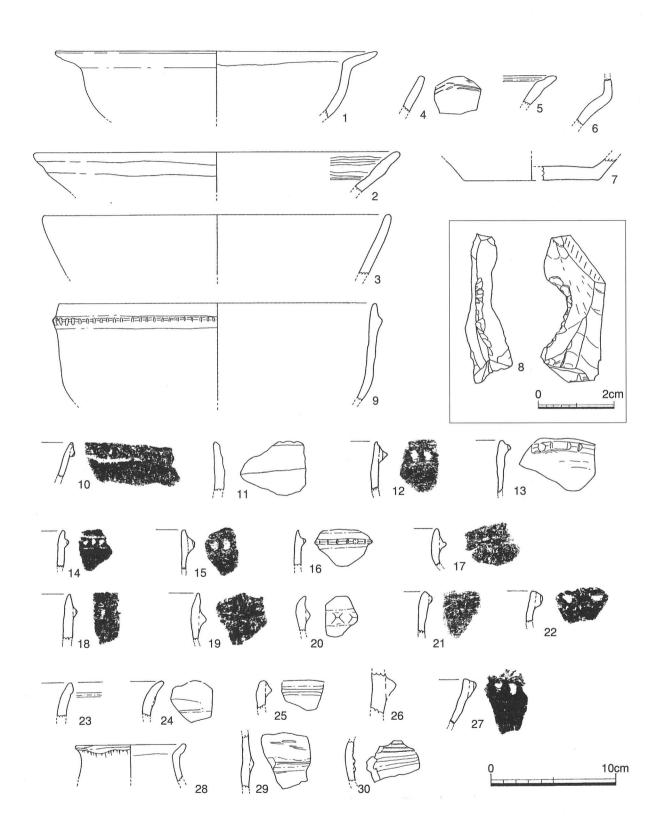
遺構名 柱列 3												
主軸 N-18°-W												
規模			8間									
(m)			18.8									
柱間距離	柱間	P1-2	P2-3	P3-4	P4-5	P5-6	P6-7	P7-8	P8-9			
(m)	距離(m)	2.6	1.7	1	2.55	2.7	2.8	2.65	2.8			
柱穴等	番号	P1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8			
	上面径(cm)	25×23	25×27	30×38	20×26	30×34	21×28	28×28	23×27			
	底面標高(m)	16.76	17.08	17.06	17.12	17.36	17.12	17.12	17.19			
	番号	P 9										
	上面径(cm)	17×25										
	底面標高(m)	17.05						AND THE RESERVE TO TH				

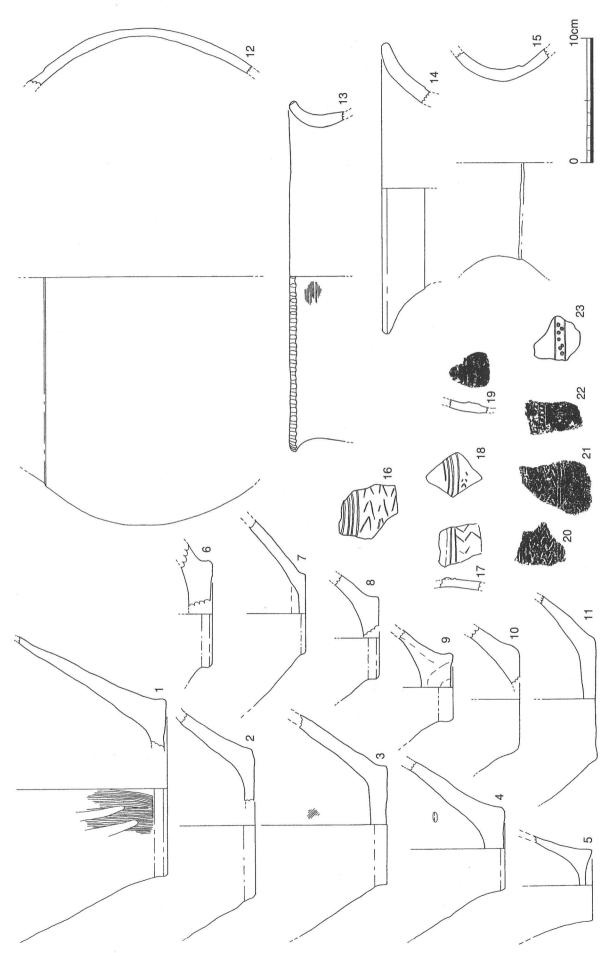
遺構名		柱列 4							
主軸		12731	N —18	$^{\circ}$ –W					
規模				間					
(m)		7.9							
柱間距離	柱間	P1-2	P 2 - 3	P 3 - 4					
(m)	距離(m)	2.65	2.65	2.65					
柱穴等	番号	P1	P 2	P 3	P 4				
	上面径(cm)	20×20	22×25	45×30	45×45				
	底面標高(m)		16.76	16.65	16.34				

遺構名		平面形	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	主軸
土坑 1			1.6	1.4		N -90° -W
土坑 2				2.1		N -70° -W
土坑墓 1	上面		15.5	0.85	0.38	N
	底面		13.4	0.7	0.30	
溝状遺構 1	上面		15.4	0.85	0.35	N -38° -W
	底面			0.67	0.33	
溝状遺構 2			2.7	0.58		N -44° -W
溝状遺構 3			2.13	0.4		N -90° -W
溝状遺構 4			8.6	0.62		N -20° -W

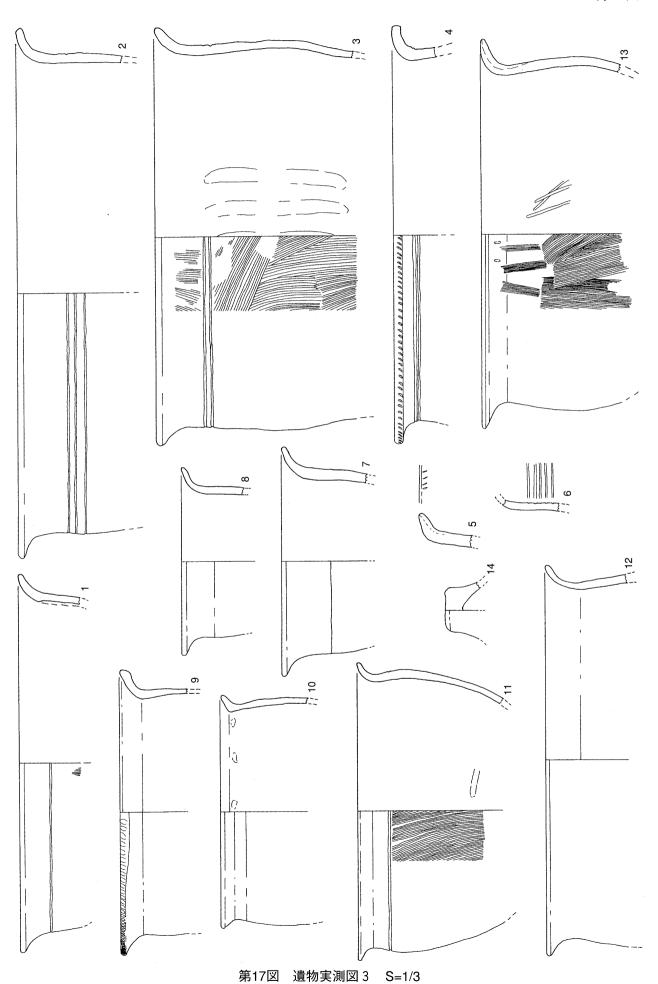
グラフ1 柱間距離一覧



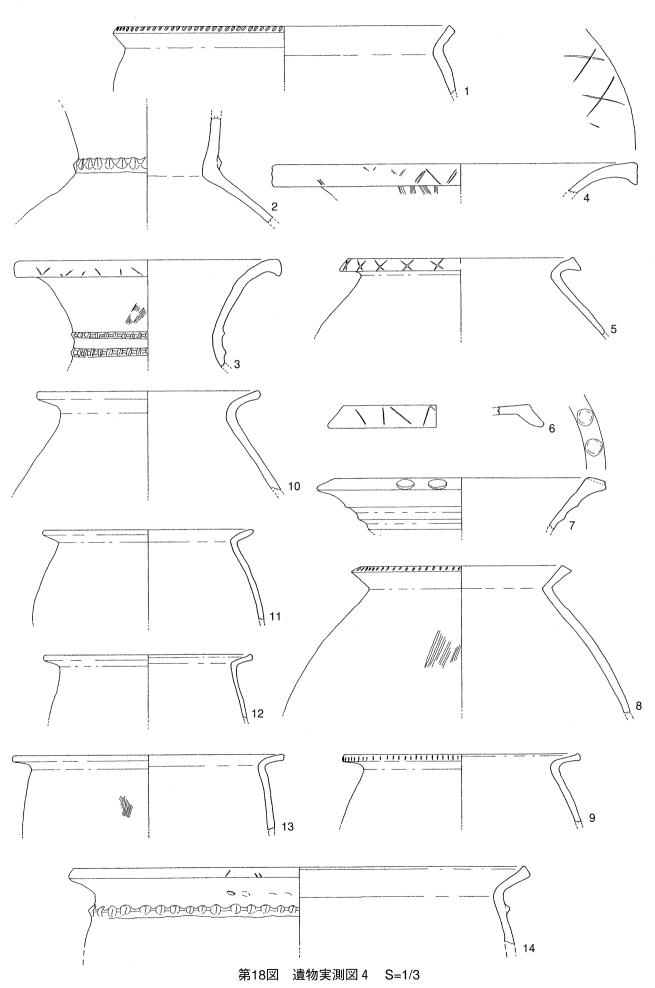


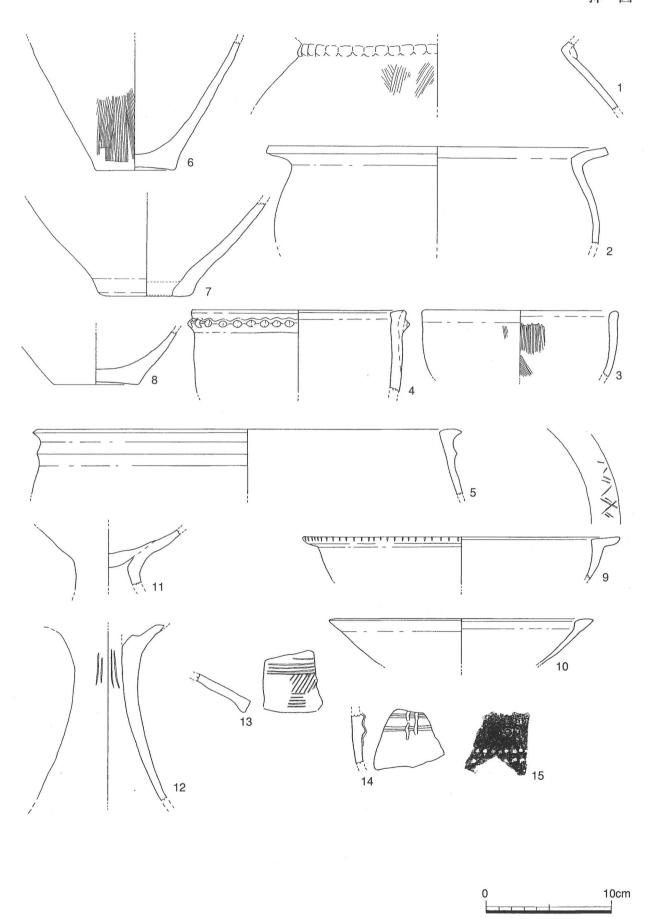


第16図 遺物実測図2 S=1/3

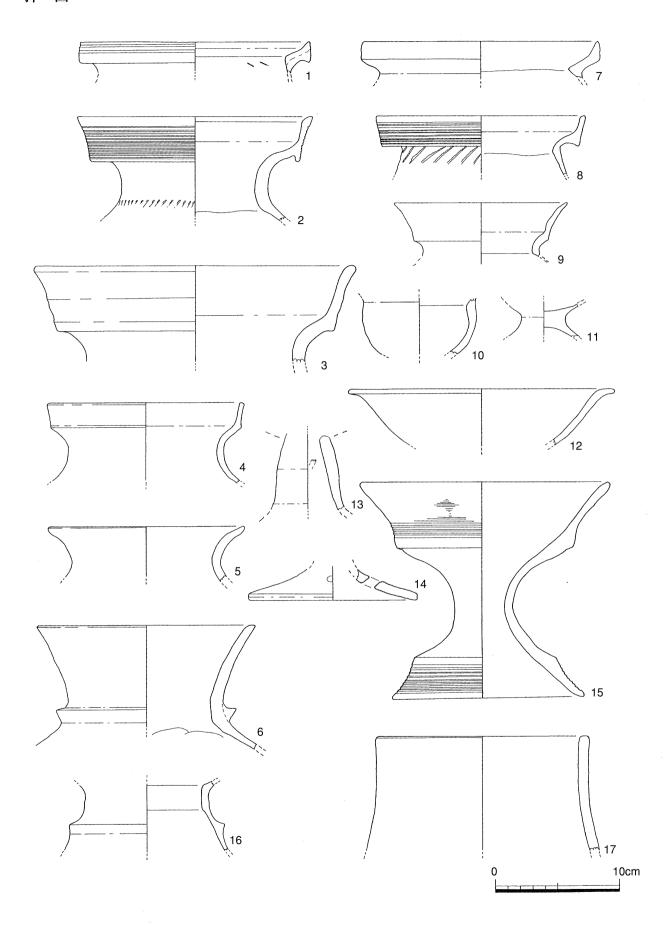


34

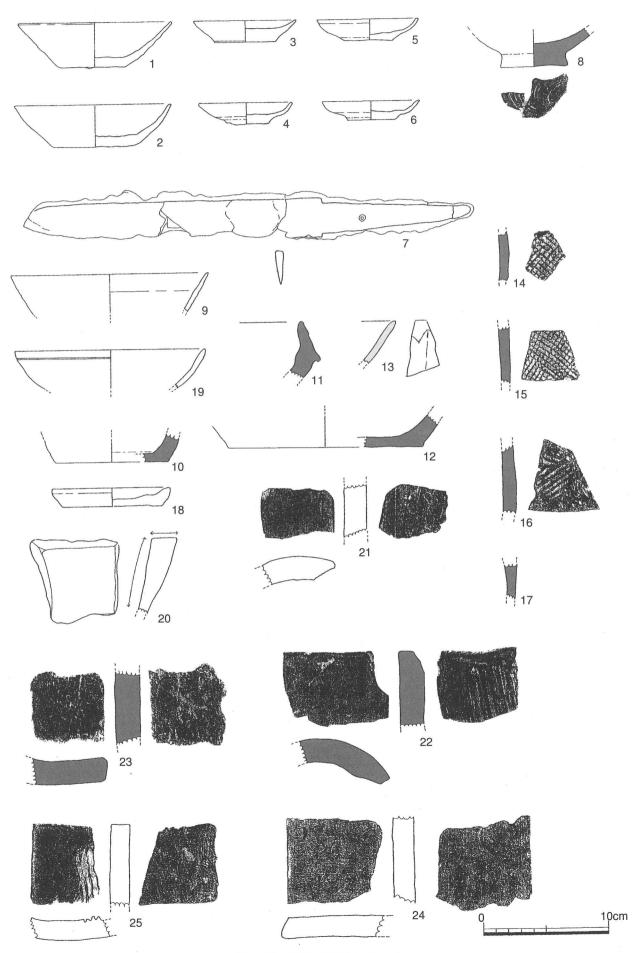




第19図 遺物実測図5 S=1/3



第20図 遺物実測図6 S=1/3



第21図 遺物実測図 S=1/3

表 3 遺物観察表(1)

(B)—23	(§—22	15-21	(B)—20	®—19	15-18	(5 -17	15-16	(§—15	15-14	15-13	(§—12	15-11	®─10	(§— 9	15-8	15-7	15-6	15-5	(i)— 4	15 — 3	(5)— 2	15- 1	挿図番号
突帯文深鉢	突帯文深鉢	突帯文深鉢	突帯文深鉢	突帯文深鉢	突帯文深鉢	突帯文深鉢	突帯文深鉢	突帯文深鉢	突帯文深鉢	突帯文深鉢	突帯文深鉢	突帯文深鉢	突帯文深鉢	突帯文深鉢	石器	底部	鉢	鉢	鉢 口縁	深鉢	浅鉢 口縁	浅鉢	器種
不明	不明	不明	不明	不明	不明(ナデか?)	不明	不明	不明		外面:ナデカ面:不明	1 3	不明	不明、口縁端部から 突帯はりつける	不明		不明	不明(条痕か?)	外面:強いナデ? 内面:ミガキ	ナデッガキ	外面: :: ガキ 内面: :: ガキ	記七	外面: 不明 内面: ミガキ	
丸い端部から7mm下がったとことに強いナデをほどこし突帯を表現、キザミ目なし	口縁に接して幅1cm、高さ5mmの実帯がつ 突帯:浅い0字キザミ目	口縁に幅1cm、高さ5mmの突帯が接する. 突帯: キザミ目ないが、1条ほどキザミのようなものがあり	先組る端部から1cm下がって、幅1cm、高さ5mmの実帯がつく 突帯:0字の深いキザミ	先細る口縁から1.5cm下がったとことに幅 1 cm、高さ 5 mmの突帯がつく 突帯:キザミ目なし	先細る口縁から1 cm 下がったところに幅1 cm、高さ4 mm の突帯がつく 突帯:浅いV字キザミ	1	先組る端部から5 mm 下がって、幅7 mm、高さ7 mmの突帯がつく 突帯:V字のキザミ	口縁から5 mm 下がったところに幅1 cm、高さ5 mm の 突帯つく 口縁部:キザミなし 突帯部:キザミ、浅く弱い、U字状のキザミ	先細る口縁から5mm下がったところに幅5mm、 高さ3mmの突帯がつく 突帯:キザミ目∪字型 小さいがはっきり入る、丁寧につけられている	口縁から2~5 mmほど下がって幅7 mmの突帯がつく、キザミ深いV字(右に流れる)	口縁から 5 mm下がったところから幅 1 cmの突帯 (高 6 7 mm) 突帯部:キザミ大きく鋭いV字(右に流れる)	口縁から3mm下がったところに幅2cmの突帯ハクリ痕あり 口縁端部:キザミ	口縁部:V字キザミ突帯部:キザミ(下側に弱く入る)	口縁より1cm下がったところに幅8mmの突帯、 V字キザミ	直径:4.0cm	底部:立ち上がりから大きく外反	胴部:屈曲し外反	口縁内面:ナデによる沈線	口縁端部に面をもつ、口縁外面に条痕		口縁外面:強いナデによる窪み、口縁内面:2条 一組の条痕(平行)	口縁:外反	特徴
													. *	25						27.3	28.4	27.4	口径 /
																10.5							民径
さき番	凿	きる描	꿩	凿	描	湽	やや粗 2ミ の砂粒を含む	趎	益	さき蓋	趎	やや粗	畨	やや粗 2- 砂粒を含む		さき蓋	がる (1)	きき蓋	をや粗 白色砂粒:	推	さる粗	推	器高
							2ミリ以下							3≥100			白色砂粒め		1ミリ程の を含む				胎土
淡茶的	淡茶色	淡茶白色 口縁端部:黒色	外:淡黄色 内:断面黑色	淡茶灰色 (一部明橙色)	淡茶灰色	淡茶灰色 外:橙色	灰茶色(一部橙色)	淡茶灰色	淡黑色 外:淡茶灰色	暗橙色(一部赤彩)	外:淡茶灰色 断面:橙色 内:端部:やや黒色	外:黒色 断面:淡灰色	淡茶色	- · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		黒茶色	一个	外:黑茶色 内:脂茶色	黒色	黒色	黒色	無色	色調
良好	不良	良好	良好	やや不良	良好	良好	やや不良	やや不良		良好	良好	やや不良	やや不良	やや不良		良好	良好	やや不良	良好	あまい	良好	あまい	焼成
						外面に付着物有り (不明)		端部にキザミ様のも のあるが不明		口縁の形態不明		突帯ハクリ	突帯ハクリ		2次加工のある石片						岩田四類の可能性	弥生中期杯の可能性	備考
鯔火	離	離外	離	離外	離	編 文	縄文	離	灣 文	4 公	灣	編	離火	離	縄文か?	縄文	縄文	縄文	縄文	編 文	編	縄文	時代
晚期~	晚期~	晩期~	晩期~	晩期~	晚期~		晚期~	晩期~	晚期~	晚期~	晚期~	晚期~	晩期~	晩期~		不明	不明	不明	不明	不明	晩期?		時期

良奶	良好	自好(言쑆か?
: 黒灰色 : 淡黄白色	以下 外: 黒灰色 内: 淡黄白	以下 外: 黑灰色 内: 淡黄白色
色(若干橙色	砂 淡黄色(若干橙 系)	砂 淡黄色(若干橙色 良好
丸砂含む 淡茶色 良好		淡茶色
リ程の角砂 淡茶白色 良	砂 淡茶白色	砂 淡茶白色
リ程の 暗橙色 やや不	程の	程の 暗橙色
0角 灰黄色 淡赤色 黒はん	5角 灰黄色 黒はん	0角 灰黄色 淡赤色 黒はん
3ミリ程の砂粒を多 外:茶色 人含む 内:淡黄色 良好	(多) 外: 茶色 内: 淡黄	5多 外:茶色 内:淡黄色
)丸 淡黄灰色	0丸 淡声)丸 淡黄灰色
色 一点	:淡茶色 橙色:淡茶白色	:淡茶色 橙色 良:淡茶白色 良
リの角 外:赤橙色 内:黒色 良好	の角 外: 内:	の角 外:赤橙色 内:黒色
色	を含む 外:淡橙白 内:灰白色	を含む 外:淡橙白色 内:灰白色
角砂多く含む 淡赤色 良	淡赤色	淡赤色
細かい砂粒 淡茶色 良好		粒 淡茶色
程の砂を 暗橙色 良好	を暗橙色	を暗橙色良
	外:淡橙色 身:淡橙色 良好	く含む 外:淡橙色 内:淡茶白色
く含む 外:淡茶色 内:淡茶白色 良	含む 外: 淡茶色 内: 淡茶白色 良	含む 内:淡茶色 内:淡茶白色
畑	程の淡茶白色	程の淡茶白色良
淡黄色		畑
	程の 淡灰白色 良好	程の 淡灰白色
外:明穡色 内:灰白色 やや不	: 明橙色 : 灰白色 やや不良	: 明橙色: 灰白色
淡茶灰色 外:橙色 臭好	良好	良好
淡茶色 良好	良好	
リ程の 淡茶灰色 良好	程の	程の 淡茶灰色 良好
明橙色 やや不	を や不良	
色調 焼成		

表 3 遺物観察表(2)

指頭圧痕文帯 口縁垂下し面をもつ、面に鋸歯文をほどこ
短く屈曲する口縁端部に面をもつ、あり
Year Year
二線端部:ゆるく外及
外国: / ケメ 外面: ヘラによるナデか? 口縁端部: 短く外反、 口縁部: 横ナデ
口縁端部:短<外反
口縁端部:キザミ
口縁端部:丸
口縁端部:丸、段をも
5条の沈線
口縁端部:丸、キザミ
口縁端部:面をもち二 線2条
外面:口縁から沈線まで 縦ハケメ、沈線以下から 紅斜めハケメから縦ハケ メ 内面:指ナデ
口縁端部:丸、沈線3条
(ハクリ) 口縁端部:丸、沈線1条
2条の沈線に区画された径3mmの竹管文
くし状工具による沈線に区画された刺突文
二枚貝による3条の沈線に区画された綾杉 文
二枚貝による3条以上の沈線に区画された 綾杉文
幅1cm高さ3mmの削りだし突帯の2条の浅 い沈線
特徴

19—15	19-14	19-13	19-12	19-11	19-10	19-9	19-8	19-7	19—6	(1) - 5	(19—4	19-3	19-2	(i) (ii) (iii)	18-14	®—13	18-12	18-11	18-10	18 — 9	(B)— 8	18-7	(B)— 6	18-5	18-4	挿図番号
胴部	壷 胴部	高坏 脚 端部	高坏 脚部	高坏 充填部	高坏 坏部	高坏 坏部	壷か鉢底部	壷か鉢底部	甕 底部	鉢 口縁	拿 口線	鉢 口線	鉢 口縁	甕か壷 頚部	灣 口線	際口線	甕 口縁	甕か鉢 口縁	●□繰	繼口緣	甕 口縁		· □縁	童 口縁	壷 □縁	器種
おそらくナデ	不明	不明	外面:不明 内面:絞り目	不明	不 賜	ナデもしくはミガキ	不明	不明	外面:縦ハケメ 内面:ナデもしくはミガキ	不明	外面:不明 内面:ミガキ	外面:ナデ 内面:ミガキ	外面:不明 内面:横ハケメ	外面:ハケメ 内面:不明	不明	外面:織ハケメ、頚 部つよいナデ	不明	不明	不明	不明	外面:ハケメ ナデ 内面:ナデ	不明	横ナデ	外面:不明 内面:ミガキか?	外面:縦ハケメ	調整
2条の列点文	2条の鋭い突帯に直交して2条の粘土帯はり つけ	端部垂下し面をもつ、外面にクシ描き直線 文で区画されたクシ描き斜行線文		充填部径7cmの接合痕、充填部に軸穴な し	端部肥厚し上面に面をもつ、格子文か鋸歯 文がほどこされているが、図化不可能	水平に張り出した口縁上面に面をもち、2条 の斜格子文、端部は小さくきざむ	上げ底	底部立ち上がって屈曲	上げ底	強くつまみだした口縁上面に面をもつ、1cm 下がったところに突帯	口縁端部:上面に面をもち5mm下がったと ころに突帯はりつく、O字キザミ目	口縁端部:強くナデ丸くおさめる	短く屈曲する口縁端部に面をもつ、厚いつくり	頚部に指頭圧痕文帯	口縁短く外反し、端部に面をもつ、頚部から1cm下がったところに指頭圧痕文帯	口縁端部:短く屈曲し面をもつ、胴部:厚いつくり	短く屈曲する口縁端部をつまみあげ、面をもつ、 全体に薄っくり	短く屈曲する口縁端部丸くおさめる、胴部薄つくり	短く屈曲し面をもつ	口縁端部:短く屈曲し面をもつ、キザミ	短く屈曲する口縁端部に面をもつ、キザミ	口縁端部:発達し面をもつ、円形浮文一対、 頚部ナデによる突帯3条以上	外形する垂下口縁に鋸歯文、口縁上面に 波状文	短く屈曲する口縁端部に面をもつ、斜格子 文	垂下口縁、面をもち2条の鋸歯文、口縁上 面に2条の斜格子文	特徴
					19.4	25.2				33.2	16.4	15	26.8		36	21.4	8.4	8.4	17.4	20.6	18	22	16.8	17.9	28.1	法量口径一原
				5.2			6.5	7.4	6.4														14.9			量 (cm) 底径
粗 3~4ミリの砂粒 を多く含む	やや粗 あまり砂粒 を含まない	密 あまり砂粒を含 まない	やや不良 小砂粒多く含む	密 砂粒をあまり含まない	やや粗 小砂粒を少量含む	密 小砂粒を含む	やや粗 小砂粒を少 量含む	やや粗 小砂粒を少 量含む		やや粗 2 m m 以上 の砂粒を含む	やや粗 小砂粒含む	密 あまり砂粒を含まない	密 あまり砂粒を含まない	やや粗	やや粗 少量の砂粒 を含む	小砂粒を多く含む	小砂粒を多く含む	小砂粒を多く含む	密 小砂粒を少量含 む	密 あまり砂粒を含まない	小砂粒を多く含む	やや組 赤色土粒多く含む	密 小砂粒を多く含む	密 小砂粒を多く含む	密 小砂粒多く含む	器高 胎士
暗赤茶色(内側に黒 はん)	淡茶白色	色置: 四縣 安装彩	暗赤茶色(赤色は顔 料か?)	淡黄白色	外内:暗灰色	外:黒色 内:淡黄茶色	外:黄灰色 内:黒色	外:淡黄白色 内:黒色	淡黄白色	淡灰白色	淡茶白色 (やや橙)	外:淡灰白色 内:黒色	外:灰白色 内:黒色	淡黄茶色	淡黄白色	淡黄白色 (内:赤色顔料付き)	淡茶白色 口線:淡茶色	淡黄白色	淡橙色	外:淡黄白色 内:淡灰白色	淡茶灰色	明橙白色	淡黄灰色	外:淡黄白色 内:黑色	淡黄白色	色調
良好	良好	良好	やや不良	良好	やや不良	烛	畑	冲	垭	良好	良好	東	良好	⊳	凤	域	垭	点	点	良	本	やや不良.	一	域	点	焼成
								植物痕	外面に黒はん		精製された前期的な 胎土				大型	Ⅱ様式?		スス付着(外面)								備考
弥生	弥生	弥生	弥生	弥生	弥生	弥生	弥生	弥生	弥生	弥生	弥生	弥生	弥生	弥生	弥生	弥生	弥生	弥生	弥生	弥生	弥生	弥生	弥生	弥生	弥生	時代
中期	中期	中期	中期	中期	中期	中期	中期	中期	中期	中期	中期	中期	中期	中期	中期	中期	中期	中期	中期	中期	中期	中期	中期	中期	中期	時期

表 3 遺物観察表(3)

2)-10	21)— 9	21)— 8	2)-6	· 21)— 5	21)— 4	21)— 3	21-2	21-1	20-17	20-16	20-15	29-14	20-13	20-12	20-11	20-10	20-9	20-8	20-7	20-6	20-5	20 — 4	20 — 3	20-2	20-1	
須恵器 底部	須恵器 坏	須恵器 高台	土師器 小皿	土師器 小皿	土師器 小皿	土師器	土師器 坏	土師器 坏	點型土器	鼓型器台	鼓型器台	脚端部	高坏 脚部	高坏 坏部	低脚坏	壷 胴部	甕 口縁	甕 口縁	甕 口縁	壷 口縁	甕 口縁	壷 □縁	· □ 禄	● □線	壷か甕 口縁	
胴部:回転ナデ	胴部:回転ナデ	胴部:ナデ 底部:回転糸切りR	胴部:不明(回転ナデ) 底部:回転糸切りか?	胴部:不明(回転ナデ) 底部:回転糸切りか?	胴部:不明 (回転ナデ) 底部:回転糸切りか?	胴音B:不明 底部側面:不明(回転糸切りか?)	胴部: 回転ナデ 底部側面:ヘラ切り後ナデか?	胴部:回転ナデ	ナデ	不明	不明	ナデもしくはミガキ	外面:不明 内面:しぼり目	不明	不明	外面:不明 内面:ミガキ	外面:不明 内面:ヘラ削り	不明	外面:不明 内面:ヘラ削り	外面:横ナデ 内面:ヘラ削り	横ナデ	横ナデ	横ナデ	外面:不明 内面:ヘラ削り	外面:不明 内面:削り	18
	口縁:重ね焼き痕		精製された胎士	精製された胎土	精製された胎土	精製された胎土	精製された胎土	白色系、うすい仕上げ	口縁端部を丸くおさめ突帯はつかない	縮約された筒部をもち、脚台部は無文	やや発達した筒部をもち器受部・脚台部の 外面にクシ描き直線文	脚面穿孔、端部面をもつ	脚部中央膨らむ、内面工具痕	坏端部外反する、 坏部屈曲しない	関係<開<	小型精製品	発達した複合口縁外反し、端部先細る	複合口縁外面に擬凹線、頚部二枚貝による刺突文	複合口縁短く立ち上がる	直立ぎみに単純口縁端部丸くおさめる、頚部に鋭く突帯文はりつけ	ゆるく外反する単純口縁、端部先細り丸く おさめる	発達しない複合口縁端部丸くおさめる	複合口縁ゆるく外反し端部丸くおさめる	複合口縁下方へ発達、端部内側に面をもつ 外面:擬凹線文、頚部下方に二枚貝による列点文	発達した口縁端部に2条以上の沈線文	
	15.6		7.8	ω	7.3	8.2	11.8	12.1	16.8	9	19.7			15.3			11.1	16.8	18.8	17.3	15.7	15.5	25.5	18.7	18.4	I
9		5.2	3.7	3.8	3.5	4.8	6.5	4.8				13.4	,													上い土
			1.5	1.6	1.5	11.5	3.3	3.6																		DETE
密	꿩	密 あまり砂粒を含まない	꿩	密 赤色土粒を含む	密 赤色土粒を含む		砌	।	密 あまり砂粒を含まない	密 あまり砂粒を含まない	やや粗 1ミリ以下 の砂粒を含む	密 精製されあまり砂粒を含まない	3 // U	密 あまり砂粒を含まない	あまり砂ない	砂粒を		呈の砂	やや粗 1ミリ以下 の砂粒を含む	ツリ程	密 あまり砂粒を含まない	さ き 巻	密細かい砂粒を含む		阻 砂粒をあまない	
外:暗紫茶色 内:淡紫色 断面:淡灰色	淡灰色 口縁灰黒色	淡灰色	暗橙色	淡橙白色	淡橙白色	淡橙白色	暗橙色	淡黄色	淡黄白色	淡黄色	淡黄白色(一部黒は ん有り)	淡黄灰色	淡橙白色	淡黄白色	淡茶白色	外:褐色 内:淡黄色	淡黄白色	淡茶色~淡桃色	黄白色	暗橙色	淡橙色	淡茶白色	淡茶灰色	淡茶白色	淡茶色	
良好	良好	不良	やや不良	やや不良	おお不良	やや不良	やや不良	烟	良好	良好	良好	良好	良好	良好	やや不良	屈	良好	良好	やや不良	やや不良	良好	やや不良	良好	垭	良好	
	波来浜より薄い造り	浜田横路にある・ 1997	SK01-②-2と同じ胎 土、色調					②-2~6より古い イメージ		受け部の可能性も	ゆがみ有り	療 水	機内系か?							口縁・揺鸹・乜側にスス	療力米		大型品	外面黒はん		
丑庫	平安末~中世前か?	平安末~中世前か?	丑库	日庫	日庫	日庫	日庫	丑库	弥生	弥生	弥生	弥生	弥生	弥生	弥生	弥生	弥生	弥生	弥生	弥生	弥生	弥生	弥生	弥生	弥生	
			13世約	13 体	13 世	13 体	13 世 約	13世紀?	末期	未期	後期	末期	未期	末期	未期	後期	末期	後期	後期	後期	末期	末期	末期	後期	後期	

刃先欠ける	6mm	3.3cm	径5mm	3.1cm	11.8cm	24cm~	平棟	是是	不明	一般形・生中心、栗尻	内反り(若干)	平造り	短刀	21)— 7
i d	重ね	国	目釘孔	副息	中心	刀長	藻	切先	鱸目	中心	亙り		×<∓!	E E
龍			寸法	ব					部分	선		造り込み	插插	中米回斯

2)-25	21)—24	2)-23	21)—22	21-21	21)—20	211-19	21)—18	21)—17	21-16	21-15	21)—14	21-13	211-12	211	挿図番号
燻し瓦	燻し瓦	須恵器 瓦	須恵器 瓦	燻し瓦	砥石	土師器 坏	土師器 皿	須恵器	須恵器 甕	須恵器 甕	須恵器 甕	青磁碗	すり鉢	すり鉢	器種
外面: 荒れている、部 分的ナデ 内面: ナデ(ていねい)	外面:ナデ(縦横方向) 側面:縦方向ナデ 内面:ナデ(単位不明)	外面:網目タタキ後、 荒いナデ 内面:未調整(離れ 砂、使用か?)	外面:ナデ 内面:棒状工具によ るたたき、ナデ	外面:ナデ 内面:(棒狀工具によるたたき)	使用による磨滅	不明	不明	ナデ	胴部外面:平行タタキ 胴部内面:ケズリ 後、横ナデ	胴部外面:格子目タタキ 胴部内面:ナデ	胴部外面:格子目タタキ 胴部内面:ハケメ		胴部内面:使用によ りなめらか	胴部:ナデ 使用に より滑ってなめらか	藝
平瓦(滑り止めの櫛目)	平瓦	平瓦	丸瓦	丸瓦	総:5cm以上、横:5cm以上	口縁:外面に沈線	口縁:短く立ち上がる	内:自然釉	外:自然釉			鎬連弁	すりめはない	②一12と同一か?	特徴
		-				15.2						,			法量 口径 痕
							7.7						17.4		(cm
	꿩	暾	哟	撥		彤	ା	鸱	凾	鸱	ା	凾	~ tH		器島
253	433	233	133	120		120	193	191	153	19	193	131	密 (白色の砂粒が目立つ)	193	胎士
外:淡灰色 断面:灰白色	外:黒銀色 断面:灰白色	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	暗灰色	外:黒灰色 断面:灰白色	乳白色	暗茶色	淡茶色	灰色	灰色	灰色	暗青灰色	談 的	青灰色	外:暗茶赤色	色調
やさる人	やや不良	良好	良好	やや不良		良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好	焼成
カーボンの吸着が弱い					売砥用			器種不明				龍泉窯系	備前系	備前系	備老
片庫	近世	中世か?	中世か?	近世		廿 庫	中库	おそらく中世	丑庫	丑庫	井庫				時代
19申約	19世紀 以羅	八思	分品	19世紀 以降	思	,						13~14 古常			時期

表 4 遺物分類表

(1) 縄文

時期	器 種	部位	特 徴 1	特 徴 2	計
晚期	深鉢	口縁	キザミ	突帯文キザミ	2
				突帯文ハクリ	1
			丸	突帯文キザミ	9
				薄い突帯文	2
			細片		-1
			先細る	突帯文キザミ	3
				薄い突帯文	2
				突帯文キザミなし	2
			突帯接する	強いナデで突帯文表現	1
				突帯文キザミ	12
				突帯文退化	1
				薄い突帯文	1
				突帯文キザミなし	7
				突帯文キザミ	3
		胴	削りだし突帯文	突帯2条・沈線	1
			穿孔		1
			突帯文キザミなし		1
					1
	浅鉢	口縁	端部に強いナデ	内側条痕	1
	鉢	口縁	内に段		1
	不明	口縁	ミガキ	外側条痕	1
不 明	深鉢	口縁	丸	ミガキ	1
		底部			1
	浅鉢	口縁	外反		1
		底部	条痕		1
	鉢	口縁	ミガキ		1
			外側強いナデ		1
			丸	ミガキ	1
					1
		胴	くの字に内彎		1
	不明	不明			9
総計					72

(2) 弥生前期

時	期	器種	部位	特 徴 1	特 徴 2	計
前	期	壷	口縁	丸	キザミ	2
						47
			首	段		32
				沈線		6
				沈線2条~	焼成時、ハクリ	1
			底部			5
		壷又は鉢	底部			25
		鉢	口縁	丸		1
			_	沈線1条		1
						2
		甕又は鉢	口縁	丸		3
		甕	口縁	丸	キザミ	3

時	期	器種	部位	特 徴 1	特 徴 2	計
前	期				無文	46
						42
				垂下		6
				面持つ	段	1
						1
				沈線1条		5
				沈線1条~		3
				沈線2条	キザミ	1
				a'		2
				沈線3条~		1
			首	沈線1条		3
				沈線2条		5
				沈線2条~		2
				沈線3条		3
				沈線3条~		1
			胴	沈線5条		1
			底部			74
		ふた	つまみ	丸	8	1
		不明	口縁	丸	キザミ	1
						39
			首	沈線1条		18
				沈線1条~		4
				沈線2条		9
				沈線2条~		6
				沈線3条~	キザミ	1
						3
				沈線4条		1
				沈線4条~		3
				多条		2
			胴	ハケメ		3
				綾杉		1
				刺突		4
				刺突文		1
				指なで		1
				段綾杉		1
				沈線1条		1
				沈線1条~		1
				沈線2条		3
				沈線2条~	綾杉	2
				沈線3条	沈線	1
				沈線3条~	沈線間刺突	1
				多条		1
				沈線綾杉		6
				沈線間刺突		2
				沈線間竹管		1
				突帯		2
				突帯2条		1
				波状文		1

(2) 弥生前期

時,	胡	器種	部位	特徵	1	特 徴 2	計
前其	胡	不明	胴				7
			底部				25
			不明				4
							5
				赤塗り			2
前期	Ī	Ħ·					491

(3) 弥生中期

時期	器 種	.部 位	特 徴 1	特 徴 2	計
中期	壷	口縁	拡張する		1
			上に面を持つ	×	1
			上下に拡幅		1
			垂下する	キザミ	2
				円形浮文	2
				鋸歯文	5
				鋸歯文、突帯キザミ目2条	1
				波状文	2
					26
			面持つ	キザミ	9
				斜格子文	1
				首・指頭圧痕文帯	2
					15
		首	指頭圧痕文帯		18
			突帯	キザミ目	6
				縦貼り付け突帯	1
2					26
					2
		底部			23
	壷又は鉢	口縁	面持つ		6
		底部			25
	鉢	口縁	外反	突帯	1
			丸	首・指頭圧痕文帯	1
				内彎	1
					1
			上に面を持つ	首・指頭圧痕文帯	2
			穿孔		1
			肥厚		2
-			面持つ		5
	甕	口縁	丸		123
			上下に拡幅		1
			面持つ	キザミ	4
				首・指頭圧痕文帯	2
					47
			沈線1条		1
			沈線2条		1
		首	指頭圧痕文帯		1
		胴		二枚貝、刺突	1
1		底部			50

時期	器種	部 位	特 徴 1	特 徴 2	計
中 期	高杯	口縁	上に面を持つ		1
		充填			2
		杯	面持つ		2
		脚			6
		台			1
	不明	口縁	丸		57
			面持つ		20
		胴	円形、浮文		1
			刺突文		3
			斜格子文		1
			波状文	ギ凹線・クシによる刺突	2
					2
					3
		脚			9
		底部			21
		不明			1
		空白			4
中期計					

(4) 弥生後~末期

時期	器 種	部位	特 徴 1	特 徴 2	計		
後~末期	壷	口縁	直口		3		
			二重口縁		18		
		首			2		
		胴	小型		2		
	甕	口縁	二重口縁	文様	1		
					59		
	高杯	脚			3		
	器台	不明	鼓形器台		37		
	低脚杯	脚			3		
	甑	口縁			4		
	紡錘車	完形	胴部転用		1		
	不明	口縁	二重口縁		74		
					63		
		注口			1		
		胴	押引き波状文		1		
		底部	丸底		9		
					4		
	-	杯			1		
					16		
後~末期 計							

(5) 中世・近世

時期	產地	種別	器種	計
13世紀前半	龍泉窯系	青磁	碗 I -5類	2
			碗Ⅰ類	4
14世紀	龍泉窯系	青磁	碗Ⅳ類	4
14~15世紀	備前系?	陶器	甕	8
15世紀前葉	備前系	陶器	擂鉢	1
17世紀	肥前系	磁器	染付け皿	1